

関東氷上郷友会

昭和五十四年五月

第10号

文道



山
ぎ
ら





渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺金三 取締役社長 岡崎一二郎

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目 22 番 12 号 Tel 887—6711(代)
" 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町 2192 番 Tel 0471—96—1489(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8 F> Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目 13 番地 Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡市博多区堅粕 3—16—14 Tel 411—4237(代)



渡辺製袋株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8 F> Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町 4938 番地 Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草 1438—1 番地 Tel 079495—0257, 0401

『山びこ』10号の年輪

——積み重なる真の郷土愛——

会長 足立三治



足立三治氏

関東水上郷友会の皆さまには益々ご健康のことと存じあげます。

本会もおかげさまでいよいよ年輪を加え、年毎に会員も増加し、相互に親睦と理解の輪が広がり、親しいふれあいもまた盛んになつて参りましたことは、誠によろこびにたえません。

本誌『山びこ』も、この号でついに十号を迎えました。この長い年月、会員諸氏のあたたかい郷土愛にはぐくまれた本誌は、今や郷友会のシンボルとして、年ごとに充実の一途にあります。この機に、編集委員、寄稿者、賛助会員、関係者各位のご苦心とご努力に対して、心からの感謝と深甚の敬意を表する次第であります。ほんとうにご苦労さまでした。これから

どうかよろしくお願い致します。

皆さまは激動する現代社会にあつて、それぞれに大志をいだき、活躍されておられますが、間々、ふとなつかしいふるりの山河や在りし日の父母、親戚、知人のことどもに思いをはせることもあろうかと存じます。そんな「心のふる里」を持つ幸福感、郷土を愛おしむことのできる人生は、何ものにもかえがたくすばらしいものかと思ひます。よき心のふる里を、いつまでも大切に持ちつづけたいものです。

私も、ふとそんなことを考えるような年輪を、しらずしらずのうちに積み重ねました。いまようやくそのことに気がつくような年輪に達したというべきでしょうか。今年は私の生まれたヒツジ年でもあり、十二年目毎に訪れるひとときわたい年輪を意識するからでしょうか。この一年、どのように対応すべきか、私も私なりの夢と希望を抱き、素直に人生の年輪を考え、来しかたの敗しかつた社会を静かに反省し、今後の新しい社会にどのように処するかを、しみじみと考える今日この頃です。

老若男女を問わず、この尊い人生街道の、一輪一輪の年輪に、心をこめて誠実にいそしみ、「心のふる里」に恥じない大きな年輪づくりを始めようではありませんか。それでこそ年輪は大きな輪となつて積み重ねられ、郷土を愛する真のよろこびがはぐくまれ、そのよろこびをお互いに分ちあうことによつてこそ、豊かな社会や優れた企業が築きあげられるのではないのでしょうか。これが私の人生と年輪への永遠のテーマです。

(つるや、産業KK社長)

山ざる 第10号 目次

表紙画『茄子』……………	常岡 文亀
「山ざる」10号の年輪……………	足立 三治……………1
「山ざる」発刊のころ……………	足立 正……………2
織田信憑と二人の文人……………	莊 正衛……………4
「ふる里村」に青春還る……………	伴仲 信次……………7
「幸せ」な人生……………	有田 喜一……………9
ゴルフ随筆……………	足立 誠一……………10
私のふる里……………	吉住 重造……………11
十年という歲月の重み……………	村上 末吉……………13
私にとってこの十年……………	西山敬次郎……………15
これからの十年……………	音無太美子……………15
丹波の人と心……………	坂本 重雄……………17
懸命に躍進へ努力……………	谷口 務……………18
ふるさと便り……………	……………19

「山ざる」発刊のころ

足立 正(永上)

◎ 第一号発刊からまる四年、やっと第二号が出せました。予定より大変おくれで恐縮しております。内容も不満だらけですが、号を追って充実したものにしたいと念じております。これからは年一回は出したいと思えます。皆さんのご協力をお願いします。

◎ 表紙のカットに常岡文亀画伯の色紙を頂き第一号の石橋会長の筆になる「山ざる」に配しました。

(足立正記)

右は昭和四十五年十一月発行「山ざる」二号の編集後記です。創刊号は四十一年六月、二号は四年目のことでした。

私は昭和三十九年に東京に出て来たのですが、その頃は郷友会の存在を知らなかったので会誌「山ざる」についても知る由もありません。昭和四十二年の春頃でしたか、大阪電気暖房機東京支店に先輩の波多洋三氏を訪ねたのが郷友会にかわりをもつきつかけとなりました。

当時の石橋治郎八会長より、会員名簿の整理、会合の設営や会誌の継続発行等の強い要請をうけ、郷友会の事務局的な

西欧雑詠	大野 渥子	20
生田正輝著『新聞を斬る』紹介		20
常岡幹彦「丹波・丹後風景展」		21
三浦巖水彩展		21
篠原よね子刺繍作品展		21
柏陵同窓会記		22
氷上朋基同好会成績		23
転居・転任・その他		24
お便り・短信		25
祝寿会・定期総会・懇親会		33
五四年度初役員会		33
会計報告		34
関東氷上郷友会の沿革／会則		35
会費領収報告／寄附者芳名		36
本会役員		37
関東氷上郷友会員名簿		39

動きをはじめたのはその年の秋ごろからと記憶しています。
昭和四十三年三月、「家の光会館」で総会開催、五月に簡単な会員名簿を作製、有志に配布。
昭和四十四年五月に浜離宮恩賜庭園、十一月に小石川後楽園と二回の懇親会を開催。この頃からぼつぼつ「山ざる」2号発行の準備にかかったのですが、その事務所とてなく、石橋生絲東京営業所や私の自宅を使ったりしていました。
十一月、小石川後楽園での懇親会を盛会裡に終えてしばらくたった頃、懇親会当日も元気に出席されていた副会長の大根喬先生が急逝され、二十四日に東海大学葬が行われました。そのとき石橋会長と会場で会ったのを好機に、帰路共に春日建設㈱に伴仲信次社長を訪ね、同社に会の事務所を置かせていただくようお願いしたところ即座に快諾され、感激したものでした。春日建設の事務所は以後今日まで、会の発展に大きな役割りを果たしました。
「山ざる」2号の発行にあたり、こういったことには全くの門外漢の私は鶴書房編集部の高松薫夫氏（市島町出身）にいろいろ相談ののっていただき、おかげで無事印刷発行の運びとなったものでした。そして、六月発行の予定が十一月になってやっと出来上り、財政的にもかなりの難産であったのです。その「山ざる」誌が今回第10号を発行出来ることになりました。全く感慨無量です。

織田信憑と二人の文人

——小沢芦庵と上田秋成——

在京都 莊 正 衛

(柏原)

織田信憑のぶたけといつてもすぐわかる人は少ないであらう。柏原織田藩第七代の藩主である。

元文五年（一七四〇）に生れ天保二年（一八三一）九十一歳で亡くなっている。

小沢芦庵と上田秋成はいずれも江戸時代中期の文学者であり、又歌人として知られているが、二人共丹波で生れ育ったわけではないので、丹波とゆかりのあったことは余りよく知られていない。

芦庵と秋成と信憑の三人が同じ時代に生きて不思議にも何等かのかわりがあったことを指適してみたい。

織田信憑

信憑（一七四〇—一八三一）は中年から晩年に至る間は光格天皇の時代で寛政・文化・文政の期間であつた。当時平安の和歌四天王と称せられた小沢芦庵との師弟関係は極めて深く彼が参勤交代等で江戸へ行く途すがら、芦庵は必ず京都の地で送り迎えをして厚く遇した。かくて二人の関係は丹波の小さな城下町に都の文化の香を直接享けてい

たことになる。

彼は又芦庵より自筆の和歌集六帖詠藻を贈られ、なんとかしてそれを後世に残したいものと思ひ、文化八年晚春京都二条富小路東入京師書林吉田四郎右衛門をして出版せしめたのである。それは春・夏・秋・冬・恋・雑二よりなる七巻で、最初の春の部に自ら格調高い序文を記してその間の事情を詳に述べている。因にこれは芦庵の歌一万数千首の内の二千首が掲げられている。

私は先年柏原の崇広小学校にある松井文庫に右六帖詠藻七冊があるのを確認したが、尚その底本となるべき芦庵が『三つが一つばかりかかせて見せまいらせなん』と述べている写本について、織田家菩提寺の成徳寺吉田定道住職にたずねた処、現在谷村公民館に織田古文書等と共に保管されているものの中に、それと思わしき自筆の、袋綴数冊が在るように思うとのことであつた。もしこれが自筆のものであるならば真に価値あるもので、現に柏原町は古文化財として指定保存の方針であるとのことであつた。

信憑は寛政六年柏原広畔舎に中川道二を聘し心学を聴講、又弘巖禪師に帰依して、西天目瑞巖山高源寺の僧堂を修築し現在見る伽藍を復興したる事蹟は高く評価さるべきであらう。同じ年柏原藩移封百年を祝し士民に酒饌を供し文化七年古稀を祝して詩歌を募り、或いは三日間書院前庭にて角力を一般に見せる等文化人としての豊かな一面をのぞかせている。又現在丹波の山間避地に素晴らしい庭園が残っているがこれは信憑が京都御所に仕えていた矢尾松軒を呼びよせ、思うがままに作庭させ自ら幽石軒と命名、今日尚雄渾なる書が残っている。更に彼は茶人として宗彦と号しているが幾度かこの山荘で茶会を催した

ことであろう。織田家は古くより稲荷を信仰していた。柏原の稲荷社にある木額に『文化十一甲戌十一月四日平朝臣信憑書』と記してありここにもまた素晴らしい筆蹟が残っている。

柏原の東北に聳える山は譲葉権現(五四一メートル)といわれ織田藩邸の東に尾根づたいに横たわっているが、彼は朝な夕なこれを眺めながら生きて来た。それ故に自らの名を譲岳とも号している。絢爛たる寛政文化の波がひたひたと丹波山間深く浸透していた時代を思わずにはいられない。彼は『人の世にあまほしと思ふ幸いの三つを一つの身にそなえつゝ』と自らの豊かな心境を詠っている歌人でもあった。

小沢芦庵

芦庵(一七二三—一八〇二)の父喜八郎は元大和国松山藩(今の奈良県宇陀町)織田家の家臣であったが故あってそこを離れ浪速に移った。そこで生れたのが芦庵である。従来芦庵は尾州犬山の人といわれていたが最近京都の中

野稽雪氏の研究によって大阪生誕説が実証せらるるに到った。

上田秋成

秋成(一七三四—一八〇九)は兩月物語の作者として余りにも有名な今更詳細を記する



に及ばないであろう。その出自については疑問の点が多い。

彼自身の言葉によれば『生レテ父無シ、其ノ故ヲ知ラズ』という。

浪速堂島永来町で紙・油商を営んでいた島屋と称する上田家に養われた。同家は元丹波黒井の郷士であり貴品高き家柄で商家としても知的な環境に育てられた。生涯丹波の地に生活するということはなかったが丹波人としての誇りと教養を身につけていた。因に丹波志によれば国領村に上田なる著姓あり又秋成の祖は吉見村上田郷の産なりとも記されている。(丹波氷上郡志)養父母の死後は商売は思わしくいかず、剩え火災病疾にもさいなまれ数奇な運命に翻弄される身となった。幼くして痘瘡にかかり右の中指、左の人差指がなく、自ら『剪枝畸人』の号を用いていた程である。彼も亦同時代の人として加島稲荷を深く信仰していた気持は充分わかる。晩年失意の心もて妻『これ』の故郷京都に移り智恵院前の袋町に住むのであるが、やがて妻にも先立たれ不遇な人生を迎えることとなるが、その間不思議な縁で芦庵と知り合い、芦庵は秋成が丹波に因縁があることを知って知らずや、十歳年下の秋成を何くれとなく心からいたわり、親切に見守ってくれ、冬は炭俵を贈って慰め又生きていくことに対するアドバイスをいともわなかつたが、秋成は少しも世におもねることもなく独り自分の世界を歩みつづけ、我が国にたぐいまれなる文学を展開したのであった。最後は芦庵の歿する後八年、独り淋しくこの世を去っていくのであった。

今南禅寺畔の西福寺に自ら生前に建てておいた墓碑の下で静かにねむっていることであろう。毎年春ともなれば傍の老紅梅の花が往時の香を偲ばせてくれる。

秋成は生来病弱の身であったことは前にも書いたが、安永八年九月妻を伴い城崎湯治への旅に出ての帰途、十月の初頃福知山から竹田黒井を経て国領の峠にさしかかるに当り、かつて養父母の住み給える故郷を遙かに眺めながら、感慨を込めてものした一文は、今日これを読む丹波人の胸をうつものがあり、丹波の風物をも偲ばせてくれるので稍長いが次に書き留めておきたい。

城崎入湯の道の記

福知山の宿のむつかしげさに、いぎたなき朝出しつれば、けさをく霜はわきて身にしみて思ゆ、よしみの竹田といふ郷は、家づくりの誠によしめきたるに、都とはからず思ゆるは、夜べのわびねの心づからにやあらん、こゝなる人の物いふとはなしに、『よしみの竹田すぎがてによる』とささやかに聞ゆるに『難波人芦火たく屋をしのぶにも』と、とりあへずかいつく。右手の山にそひて、煙のたつが賑しく見ゆるをとへば、氷上の黒井といふ、この聞ゆる郷は、おや祖父達の住み給ひし故郷とかねて聞きしものから、斯る序につけて尋ねゆかましを、母刀自のいかに期待せたまふらんとおもひ棄てゝこくりやうの坂道にかゝる、丹波の国にはふたつき高嶺といふ、誰もく足なれば、かつかれて越ゆ、

又のあした霜の痛くふれるを、れいの物わびする人、『おく霜のしるきを見れば旅路へし我なれ衣のいんど物うき』、看のまよひも浅しけれど、秋過ぎぬれば、つゞりさせとも声せぬ枯生の道を分迷ふにも、いと故郷のはるけさに、今一夜ふたよも、八千夜しふべき心地してなむ（丹波氷上郡志）

むすび

かくて三人の關係は寛政・文化・文政の世に、同じ時代に生きながら、あざなえる繩の如く見えざる縁によつて結ばれ、避地丹波の里に文化のともし火をとほしたのであることを忘れてはならない。最後に私は文学歴史に全くの素人であるが、年老いると共に郷土史に特に関心興味を覚え日頃の読書の中から感想を記したまでで、誤等あらば御教示載ければ幸である。

参考書

- | | |
|-----------------|---------|
| 丹波氷上郡志 上・下巻 | 近藤九市郎 |
| 柏原町志 | 松井華堂 |
| 丹波人物志 | 同上 |
| 丹波史年表 | 同上 |
| 近世和歌集（日本古典文学大系） | |
| 上田秋成（同） | 上 |
| 秋成（日本文学研究資料叢書） | |
| 秋成（日本古典鑑賞講座） | |
| 上田秋成集 | 重友 毅 |
| 小沢芦庵 その後の研究 | 中野稽雪 |
| 上田秋成 | 森田喜郎 |
| 上田秋成の稻荷信仰 | 相馬 大 |
| 高源寺と弘巖和尚 | 氷上文化顕彰会 |

（写真は枚方尊延寺深尾邸で大塩平八郎記念碑建立式に列席の筆者）

筆者紹介 Ⅱ 荘さんは明治三十八年四月、北京日本郵便局長の父の下で北京に生れたのち、柏原崇広小学、柏原中学、大阪高商を経て、柏原出身の故人本庄忠治氏の世話で第百銀行（現三菱）に入社、昭和三十三年三菱大阪支店長で、停年退職、悠々自適の傍ら郷土史の研究を進めているうちに、江戸時代の作家として歌人としても有名な上田秋成と小沢芦庵が郷土氷上郡と縁りがあることを知り、かねて郷党に紹介したいと考えていたとの事である。（松）

「ふる里村」に青春還る

伴 仲 信 次

（春日 多利）

昭和初期の代表的遺構

私が青春の情熱を打ち込んで建築した「元近藤家麻布別邸」で戦後スイス国大使館として使われていた建物がこのたび千葉県茂原市にある真名カントリークラブの川戸雅貴社長の懇望により、同ゴルフコースに隣接の長柄「ふる里村」に移築され、地域社会のコミュニティセンターとして使用すると共に、昭和初期の代表的日本建築の遺構として後世に保存することになった。思えば一個人の住宅として内外貴紳多数に利用され、さらに、この度は「ふる里村」に移築して多くの人々に利用され、その上昭和時代の文化財的意味を含めて保存される

ことは、これを建てた私にとってまた建築に携さわる一技術者としてこの上ない欣快事であり、また光栄と感じている次第である。

この建築は近藤男爵の別邸、日本郵船株式会社の創設者である近藤廉平氏（日露戦争の功により男爵を授け華族に列せらる）の後嗣近藤滋弥男爵（貴族院議員、三光紡績社長他要職にあり、昭和二十八年八月二十日逝去）が、当時市ヶ谷見附の牛込区左内町及田町一丁目（現江上料理学校附近一帯）にあった邸宅が広大な為に麻布市広尾町（現南麻布五一九一二）に別邸として計画されたものであった。

私は恩師渋谷五郎先生（当時大阪市立都島工業学校建築課長で日本建築の泰斗）の推挙で近藤家に奉職し「近藤男爵家建築係」として計画から設計、現場監督を直営工事実費精算により完成した建物である。この邸宅は敷地一三六七坪、建物は延三九五坪（一、三〇〇坪）あり、今日の個人住宅としてはちょっと考えられない規模の大邸宅である。このうちの母家の二三九坪が今回そっくり移築される訳である。

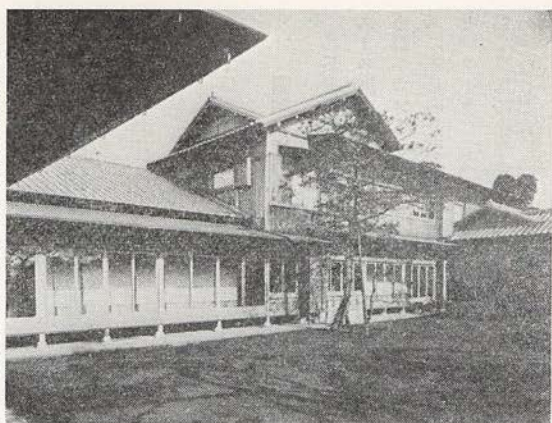
スイス国大使館の公館へ

間取りは全室京間どりで桧を主材として使い、外観は関西風の造形を考慮した。

昭和三年六月、私は若冠二十一歳、この大役を仰せつかり感奮興起文字通り情熱を傾注して計画、設計はもちろん材料の選択、仕入から現場の指揮、監督管理に打ち込み、門扉、その他附属建物、庭造りにまで大過なく完工して、昭和五年十月に近藤家を去った。そのご縁で今日まで近藤家との親交が続いている。

終戦後進駐軍による接取をおそれ、昭和二十年十一月、中立国で

移築される元スイス大使館の建物



あったスイス国に貸して近藤家は鎌倉の別邸に移られた。

スイス国大使館は歴代大使、館員ともにこの建物を愛していた。立地条件や環境に愛着を持ち昭和三十八年に敷地と共に譲り受けた、以来比類ない純日本風のユニークな外国公館として、訪れる内外貴紳の羨望の的であり、TV、新聞等でも取り上げられていたことはご存知の方が多いと思う。

しかし戦後も三十余年を経て大使館の人員も増え、また大使館としての機能を充足するには何かと不便が多く、遂にこの純日本風の大使館をこわして新しい大使館の建設に踏み切り、この程近代的な新館が完成して移転し、昨年十一月六日より旧館は取りこわす段階にあった。

突然湧いた移築話

たまたま昨年八月二十二日、私は福井孝太郎夫妻や川戸社長達と那

須にゴルフに出掛け、夜のつれづれに思い出話の中でスイス大使館の話をしたのがキッカケで、思わぬ移築話へ発展した次第である。

さっそく同大使館をおとずれてエグガー領事を通じて譲り受けを申し入れ、更に大使とも接渉して正式に書類を以ってスイス国政府に譲り受けを申請した。

ビエールクエヌー大使はこの申し入れを大変に喜ばれ「私はこの建物に限りない愛着をもっている。歴代大使も同様であり、各国の友人にも誇りをもって自慢した建物である。今迄にも部分的に譲り受けの希望者はあったが、そっくり譲り受けて再建してくれることは大変に嬉しい。さっそく本国に請訓してご希望に副うよう努める」と約され即ち十月二十五日正式に譲渡が決定した。

そしてこの建物がスイスと日本両国の親善に繋がることを期待する「ふる里村」で再会する日が待ち遠しい思いだ。オープン式には是非出席してテーブカットをしたい」と大使も大きな期待をよせていられた。

建物が五十年経った今も腐朽、損傷や歪が殆んど見られないのは建設担当者も本懐である。

設計には精進水浴

若冠二十一歳、この仕事を仰せつかった時は割合甘く考えていたが、さて実際問題となると仲々容易ではなかった。

施主の要求は「自分は洋館はきらいである。応接、書斎等椅子を使う部屋も和風にして下さい。」と要点を示されただけである。

しかし近藤夫人は家相方位については相当やかましい方であった。

だから建築設計の段になると、ブライパシーを保ち機能的に無駄な動きを少なくして調和のとれた住環境を創り出すことに努め、ある時はふるさとの「香良の滝」に籠って心身を清めて想を練って漸くまとも上げたのが今の大使館の原型である。

家相方位も泥縄式ながら勉強して、お出入りの易者（柴田南梅師）の「家相方位大吉と鑑定仕り候」とお墨付を得て決定した。

工事費は概略の予算をたてて了承を取り実費精算方式で実施したが、出来上りについてもまた費用についても何の手直し、お小言もなく、満足して住まっていただけは自分なりに努力の無駄でなかった事と思っている。

二十歳そこそこの若僧に一切を任せた施主の度量に敬服すると共

「幸せ」な人生

——与えられるものでなく、

自らで造り出すべきもの——

有田 喜一

（永上・谷村）

人間だれしも、生をこの世にうけた以上、幸せな生涯を送りたいと念願しているようである。あるいは権力の座に坐って、世の中を思うままに動かすことを幸せ、と考えている人もあるであらう。あるいはまた巨億の富を作って、贅沢な暮らしをすることを幸せ、と考えている

に、私もこの建築によって得た自信がその後の建築に対して、大いに寄与していることと考え合せて、近藤家並びに渋谷先生に深い感謝を持ちつつけている。

二十五歳の頃観世流謡曲師匠に入門し、趣味として続けていた謡曲の取り持つ縁で福井孝太郎氏（千葉日立家電社長で福井グループ七社のオーナー）と昵懇になり、公私に涉ってのお付き合いが今回のスイス大使館にも繋がってきた。人と人の繋がりのなんと奇しきことよ！人と人の触れ合いは大切にしたいものだ、氷上郷友会もそんな場であることを念願し、今後共につづけたいと思っている。

（春日建設K・K社長 五四・一・一七記）

人もあるであらう。しかしどんなに権力の座に坐ろうとも、またどんなに巨億の富を作ろうとも、その人に心の豊かさがなければ真の幸せは得られない。人間の幸せとか、不幸せとかは、各人それぞれの心の持ち方、考え方によって左右されるものと思われる。

確か聖心女子大学の卒業式のときだったと記憶するが、小泉信三先生（故人、慶応大学の学長で、後、皇太子殿下の養育掛をされ、皇室の将来の御繁栄のため、あの美智子妃殿下を一人間人、正田家より娶られることに奔走された仁）が祝辞を述べられたが、その一節に『人間の幸せは与えられるものではなく、自らが創造（クリエート）すべきものだ。』と強く訴えられた。私はその言葉に深く感銘した。小泉先生はその引例として次のように述べられた。

「ある夏の日、二人の旅人が坂道を歩いて高い峠を越えて行った。

夏のことだから暑くて暑くてたまらない。汗はだらだらと流れ出る。

喉はからからに渴いて来る。疲れ果てていたが、漸く峠に辿りつくくと、そこに茶店があった。そこに娘さんがいたので

『ああ、喉が渴いた。水をくれないか。』

と叫んだ。すると、その茶店の娘さんは一刻も早く、旅人の渴を潤して上げたいと思い、裏の谷間に流れている冷たい水を二つのコップになみなみと一杯に盛って、お盆にのせて急いで旅人のところに持ってきた。一刻も早く飲ませてあげたいと急いだため、つい躓いて、コップの水がこぼれて半分になってしまった。すると一人の旅人はそのコップをぐいっと攪んで

『なんだ。これは半分しか水がないじゃないか。この谷川の水はただなんだらう、ケチケチするな。』

と不平不満の小言をこぼしながらその水を飲んでしまった。ところがもう一人の旅人は

『どうもありがとう。一刻も早く飲ませてやりたいと思われた娘さんの御親切なそのお気持が、なんとも嬉しくてたまらない。本当にありがとう。』

と言って感謝の気持一杯で、その半分の水をおいしく飲んだ。同じ半分のコップの水だが、果していずれが幸福感を味わったであろう？言うまでもなく後者の方が遙かに幸せ感を味わっている。このように同じコップの半分の水でも、その人の心の持ち方、考え方によって幸せにもなるし、不幸にもなるのだ」と。

まさにその通りである。運が悪くて幸せになれなかった、という人がよくあるが、それは自分の心の持ち方が間違っていないかったかとい

うことを深く反省すべきだと思う。小泉先生のこの言葉に深く感銘した私は、爾来、この言葉が脳裏を離れないのである。

私とても長い間の人生、不平不満を感じることがなかったとは言えない。しかしながら、こういうときには常に小泉先生のこの言葉を想い出して、反省しながら考え直すのである。これがいわゆる修養とも言うべきものであらう。

おたがい人生をこの世にうけた以上、幸せな生涯を送りたいし、また送らねばならぬと思う。しかもその幸せは自分の心の持ち方、考え方によって左右せらるるというのならば、おたがい充分修養して心の豊かさを培い、同じことならば幸せな人生を送らうではありませんか。

(元文部大臣)

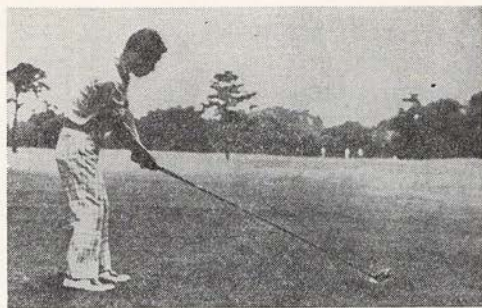
▼ゴルフ随筆▲

七二インチのドライバーを振る

足立 誠一

(青垣・佐治)

私がゴルフを初めたのが四十八歳の時である。それ迄は若い者と一緒に軟式野球を楽しんでいた。しかし年と共に走塁が苦しくなり、四十七歳で野球から遠ざかっていった。そんな或る日友人がゴルフをやってみないかとすすめてくれた。一緒に練習場に行ったが狭いところで打つ球は野球と違って男性的な豪快さがなかった。



72インチのドライバを振る足立さんのポーズ

当時ゴルフの練習場は長さ二、三〇フィートという小さいものが町中に点々と存在していたものである。長い間野球に馴染んでいたせいか練習場でのゴルフは女性的でなかなか馴染めなかった。この時点では私はゴルフ場もゴルフプレーも見ただ事があったのである。

三十五年頃だったか後樂園の競輪場で競輪のない時に限ってゴルフの練習ができるようになった。さっそく友人に後樂園に行ってみないかとすすめられた。あまり気が進まなかったが、一緒に行って驚いた。野球場より広いところで人々は思い切り球をひっぱたいて飛ばしている。野球のホームランよりも遠くに飛ばのを見て、私はゴルフに魅了されてしまった。飛ばすことのおもしろさから入ったゴルフであるから、スコアもハンディも

私には関係なくただ飛ばすことのみである。小さな身体（身長一五七センチ・体重四九キロ）で五十六、七歳位迄はまあまあ飛ばす方で人々も感心していたものである。

ある日、体格の大きな学生と一緒にプレーをした時

「お年寄りで身体も小さいので飛ばないだろうからおもしろくないだろうなあ。」と言われた。まだ打つてみないのに格好で決めるなんて失

礼な奴だと思った。それならどうしたら見た目にあの人は飛ばだろうなあと言われるようになるだろうか。そんな発想から長いドライバークラブを振るようになった。普通のドライバーは四三インチ位。私はそれを四七・五〇―五三・五八―六〇―六三インチと長さを増していき、今では七二インチを振っている。飛ばす時は二七〇フィートはいくので若い人も感心している。いまだに飛ばす事の醍醐味が忘れられず、現在日本一長いクラブを振り廻してゴルフを楽しんでいる次第である。

（株・三誠社長）

註：筆者、足立誠一氏は七二インチという長大なドライバーを振って有名である。五十三年十月二十一日夕刻のTBS-TV『びったしカンカン』番組に出場、喝采を博した。この記事はゴルフダイジェスト十一月号、同十一月二十一日、十二月二十日号にも掲載されて、評判となった。（松）

私のふる里

吉住 重造

（春日・中山）

丹波・氷上・大路・中山、そのどれ一つをとってみても最高になつかしい響きをもったものばかりです。『ふる里』『いなか』『私はこのようなところよい素敵な言葉をはかに知りません。』

若くして（小学校六年で一家をあげて離郷）ふる里を去った私は、



親と早くから別れたものほど親を思う心情が強いように、いなかを思う心は人一倍強いのかも知れません。それに還暦を過ぎた今日この頃、懐郷の念はますますつのる一方でございます。

私にはこんなふる里のイメージが定着しています。いなかはおふくろの味であり、味噌汁の香りであります。田んぼの畦道の感触であり、小川のささやきでもあります。それに三尾山は妙義山より雄大だったし、神池寺は比叡山より名刹でありました。氏神さんの八田神社は神田明神より立派だし、菩提寺の正覚寺さんは増上寺より上等でありました。

そして道路も坦々たる大道だったと今も信じております。西のヤーチャンはオリンピックの選手より駆けっかが早かったし、田村の八重ちゃんも竹下景子より美しかったです。

離郷後墓参のため数年毎に帰郷しています。そのたびに三尾山はだんだん低くなってくるとし道路はあまりにも狭くて埃りっぱいのです。帰るたびに「ふる里は遠きにありて思うもの」こんなみじめな思いでふる里を離れるのに、しばらくするとつい先日の幻滅感はあるとなく消え去り、やっぱり子供の時の（特に幼児の頃の）印象だけが

強く残ってしまいます。まことに不思議なことに思います。ナボレオンのアルプス越えの滝の話ではありませんが感受性の強い幼児期の体験、印象というものは、まことに強烈なものであり、それが人間形成にまで大きな影響をもたらすものではないでしょうか。

私の祖父は吉住徳三と申します。いなかには稀な商人であったと言われています。養子に來たため田舎に埋もれることになりましたが都会に出ていればかなりの仕事をしたらうと祖父を知る人たちから惜しまれていました。

このことは生前の小田嘉市郎さんからいただいた祖父と父に関する書簡でも（今も保存しています）知ることができたし、松山さんから贈られた東中風土記でも祖父が活躍していた一端をうかがい知ることが出来ます。大正から昭和初期にかけて米穀、山林、製糸、製茶等を商い、取引範囲は関西のみならず中部や中国地方にも及んでいたようです。

父鶴吉も福知山で米穀商を営み、年間営業申告一〇〇万円以上で第一位の所得があったこともありスケールの大きな人間でした。

母は「舞鶴の九条武子夫人」といわれるほどの賢夫人で私は今でもこれほどの人に会ったことはありません。

家族のことをこんなふうに言うのはたいへんおこがましいことですが、ふる里を語るとき私にはどうしても身内のことに触れなければなりませんし、今は鬼籍にあるのですからお許しいただきます。

私が小学校四年（昭和二年）の時祖父は他界し、二年後の六年生の時父が事業に失敗して我が家は没落しました。そして私たち一家は氷上を離れ舞鶴に移住することになりました。中学校受験を目前にして

それを断念した私の運命はここで大きく変ることになりました。

こうしてあれこれいろいろなことを思い出してみますと、うたた感懷を禁じ得ないものがございます。

あれから五〇年の歳月が流れました。さまざまなことがありました。けれどもその間決して忘れ去ることのできなかつたふる里です。今こうして郷友会の一員として皆様とご一緒に氷上を語るこののできるしあわせをしみじみかみしめております。私達が誇りをもって子供や孫たちに自慢できる「いなか」、そして私の心の中で年と共にますます美しくなってくる「ふる里」です。

(写真は春日町の三尾山吉住氏の生家中山から望む。)

十年という歳月の重み

村上 末吉

(春日・中山)

幼児がいつの間にか青年になり、この間まで大学生だったのが、もう結婚していたという事実が身辺に多い。光陰矢の如し——ということとは、青年時代はよそ事のように思っていたのが、今頃になって身につまされる昨今である。

人生にはその人によって波がある。一般には概ね十年周期で巡ってくるらしい。昔から十年一昔といわれるのは、十年が一区切りであるという意味と、十年経つと新しい世界が拓けてくるという意味の方が

強いようである。タレントの中にも十年経ってから、一度消えかかった人気をもう返す人が多い。それは十年の間、苦節に耐えてきた努力もあろうが、その人の波がうねりのように盛り返して、また勢いを得た結果新しい人生、新しい世界を開拓できたからではないだろうか。

日本は、いや先進諸国は不況の中に沈潜して、景気回復は一向にそのきざしを見せない。世の中は上下、老若の位置が不確実で、權威ある者は薄められ、頭の高いものは叩かれ、格式ばったものは崩れて、不格式なものが幅をきかし、若い層の力が強くなって消費者や住民の立場が前面に進出してきている。世の中の秩序が軽視されて、放任的な風潮が蔓延し、犯罪を犯しても犯罪意識が認められない等々不愉快な事があまりに多すぎる。

丁度十年程前にマクルーハンの「クルールとホット」な時代が風靡したことが想い出される。その頃は学園紛争が盛んで、日本経済の爛熟期であったともいえる。日本人もここまでできたのかと今更の如く戦後のみじめさを回想して、「万博」の華麗さの中に浸ったようである。

まもなく石油ショックで想像もしない不況の嵐にさらされて、始めて目が醒めた。「消費は美德」といった世の中は夢であったのか。それ以来日本は模索の歩みを続ける時代へと入った。今まで西欧に追いつけ追いこせで、西洋文明をまねることに忙しかった日本が、さて追いついてみると、これからどうしてよいのか判らないという迷いの社会である。

ガルブレイス教授は今日の世相を「不確実性の時代」と喝破した。日本人は働くことが人生であり、働くことに悦びがあると教えられてきた。しかし今の若者は『人生とは楽しむことだ』と教えられ、遊



びの人生を考えている。レジャーだ、福祉だ、と生活を悦楽する方向で人生を送るといふ姿勢が一般的に底流となっているように思われる。

最近書店の書籍の売上げが激減している。店頭で人だかりしているのはマンガの売場で、売れるのは三〇〇円程度のコミックだという。電車

の中でも中年に至るまでマンガ本を人の前で読むことに何の躊躇もしない世の中である。

個人主義（正しい意味では個人主義はよいと思う。）が発達して、他人への迷惑は構わず、自分が得ることを考えるし、他人の幸福や繁栄をねたむ心のひがみをあらわに表現する。薄情な世相を露呈して、親を親と思わず、家族から遊離して行く人間がふえる。親につきそっているから感心していると遺産相続が目的であつたりする。個人の権利を主張する自己顕示の強さを表現するものであり、義務の履行の結果権利が生じることを忘れた行為であるといいたい。

このように考えてくると、これからの十年は日本にとって反省の年であろうと考えたい。国家は教育を二十年間誤まると衰亡するといわれる。日本は戦後三十余年経っているが、もっと真剣に反省して実行に移すべきであろう。そして個人はそれぞれが哲学をもたざるを得ないときだと思っている。政府は頼むに足らず、教育、宗教も世の支え

とならないとすれば、各人が人として最も尊い、人間らしさを失わな
いための哲学をもっていることが救いとなり、社会秩序を維持するこ
とになるのではなからうか。

ガルブレイス教授は「不確実性の時代だ」と教えた。確かに人々に
一つの見方を与えたとしても、これからの生き方を正しく教えたとは思
えない。それは一年もすると忘れ去られてしまつて、また新しい見
解がでてくるに違いない。それは十年の周期で社会は変転しているか
らである。

一時の流れで目をそむけたくなるような現象はあるが、それはや
がてその人に反省の機会が与えられるに違いない。世の人々の中に正
しい哲学が根をはつておれば、悪と称される植物が繁茂する余地はな
くなる筈である。そして世の中は常に正しい、美しい者が幸福をえら
れるようになっていく筈である。もしそうでないとすれば、その社会
は狂つているといえる。

これから十年、それを信じ、そうなるであろうことを期待して、自
らの哲学に生きられるよう心掛けたいものである。

（朝桂工務店社長）

※

※

※

私にとってこの十年

西山敬次郎

(市島)

丁度十年前の私は、大平通産大臣の下で大臣官房地方課長をしておりました。その年の十一月に佐藤総理が沖繩返還のため訪米しておられる間に通産省の臨時沖繩対策室長を命ぜられました。戦時中の沖繩県民のご苦労と犠牲に対して如何に報いるか心血を注ぎました。

四十六年に沖繩返還も実現してその翌年は公害保安政策課長です。その直後に四日市判決、神岡鋼山のイタイイタイ病判決があり、高度成長のオトシ子の公害対策や、更には水俣病の水銀問題、PCB問題

などのたかまり、出光徳山工場の爆発事故と多端な一年を送りました。

四十八年七月に通商政策局総務課長になりました。その年の十月に中東戦争が勃発しそれを契機とするオイルショックに遭遇し、石油の九九%を輸入に仰いでいるわが国の通商政策の難しさを痛感しま



西山敬次郎氏

した。

四十九年九月からは二年近くを大阪通産局長として不況対策に追いまくられていたといっても過言ではありません。五十一年七月に中小企業庁次長になりました。増えつつける倒産をどうくい止めるか本当に心を痛めました。

次いで五十二年六月、貿易局長に就任した途端に円高がはげしくなり、円価値の安定のためには先ず貿易収支の黒字幅を縮少すべきであるとか々な対策をとりましたが、特に対米折衝を中心に多忙な年でありました。

そして昨年六月には三十年近く勤めた通産省を辞して故郷の丹波に帰りました。今後は丹波のため渾身の努力を払って参りたいと決意いたしております。何分よろしくお願い申し上げます。

(註) 西山さんは来るべき総選挙に立候補されとのことでした。

これからの十年

音無太美子

(春日・黒井)

私の友達は、十年一日の如くで変わった事といえば、一人息子が結婚し、孫が一人生れた事だけだという。

大方の人は如何だろうかと考えてしまおう。

私の簡単な歴史簿を開いて見た。殆んど毎年大小のニュースがよく

も我が家にはあったものだなア」と感無量である。

この十年に、住居にしても東京にいて四ヶ所自慢にもならぬ理由での転居。隣火類焼で仮住まいもした。主人の他界で主人のおもい出が角々まであるあのマンションはサツと出てよかったと思っている。このあと一人暮らしも経験——昔十五人暮らしの時もあった——して、ここで大好きで続けた事務員生活にも終止符を打って私の東京生活にさよならをして、息子夫婦のやさしい迎えに応じてやっと、大宮に落着いた。

○

三人の子供がこの十年に結婚し、それぞれ孫が二人ずつで、幸せに母の私を安心させてくれている事は、ささやかでも私にとっては最大の良き賜物だ。

だが、主人との死別が一番のショックであった。人様の世話をよくして喜ばれた人。医者から内臓器官の丈夫な人だと言われたといつてご自慢で「丈夫なもんじゃ。」と風呂上りに裸の体を手のひらでたたいていた姿が目につく。酒、タバコをのまず、水が一番いいといつて喫茶店でもコーヒ―を注文せず「水を」と言つて笑わせた人。我流の体操をオイッチニ―とやつていて、六十五歳で……とは夢にも——、この人は九十歳迄だと思つていたがすっぱかされた。

また、よからぬ事件に私の大腿骨々折手術も大きく記してある。

氷上郷友会のおかげで最近になって消息がわかり五十年振りに、恩師高野先生と電話や手紙でお話出来た。この朗ニュースは忘れず私の歴史簿を飾った。

○

華やかな大波にのり、また泥沼にあえぎ、それを乗り越え／＼来し

結婚後の四十余年、夢であつたような、消えゆく影、幻ではなかったか。ほんとうに在るのは善のみのすばらしい光の世界なのじゃないか？と思つてみよう。その喜ばしき事がいっぱいあるのを探さないで、不平不満のはびこつた心が暗いカゲとなつたのが、病気に現れたり不幸であつたり……。こんな事考えてちよつと肉眼をとじて、すばらしい光の世界を心にえがく……。そこには自分の肉体からぬけた命が生き通していくのを観る。そこは無限の愛に満たされ、無限の悦び、調和した完全となり言いようのない世界——心の眼でジーンと観る。五官の世界を超越してまた楽しからずや……。

これからの十年。持ち越苦勞、取り越苦勞は一切しないときめた。人に喜んでもらえる事をと考えれば、ホラ笑顔と愛語、ほめ言葉があるじゃないか、盲人の方に朗読奉仕の募集があると聞き鶴首している。趣味の書道も師範迄成つてと、駄目とも思わずに努力している。元来呑気に出来ているので……。

希望と光明面のみを見て喜び感謝して送ろう、これからの十年とはわからぬ余生を——。

さる十一月九州に旅して

水分峠越えて湯けむりそこかしこ

いで湯のまちに來たる安らぎ（別府にて）
すゝきの穂がその色に見ゆる時期ありと

紫の高原てふうるわしき名よ（半田高原）
今のぼりたる阿蘇山頂の銀色に

光るをバスの右に左に（十一月初雪）

丹波の人と心

—『山ざる』誌の随想への所感—

坂本 重雄

(柏原)

関東水上郷友会と柏陵同窓会に仲間入りを認めていただいたのが昨年、そして「山ざる」8号、9号を楽しく読みました。故郷の丹波の出身の方々が東京とその周辺の関東地区においても大いに活躍されている様子を知ることができ、久々に故郷が自分の心のなかに甦ってくるようです。



カップを手にする筆者

小学生のときから柏原で育ち、昭和二十六年に柏原高を卒業して以降すでに四半世紀がすぎ去りましたが、年令とともに郷里への想いや関心は深まっていくように思われます。「山ざる」に寄稿された三先輩の随想に感銘し、それへの所感をのべてみたくなります。

上山頭「空想の『郷土博物館』」(山ざる9

号)は、同先輩にある『回想と覚書』(昭和五〇年、社会保険新報社、古稀記念随想集)とともに、美術に関する造詣の深さと郷里への愛着の強さを偲ばせる作品です。永年、厚生・労働両省や関係団体において労働・社会保障行政のリーダーとして活躍された先輩の人生観や厚生行政観、それと郷土人として独自の発想とのかかわりが、労働法や社会保障法の研究に従事する私にとって大変興味ぶかく、啓発されました。

西川政一氏のスポーツ評論、旅行随想(山ざる8号9号)は、現在なお日商岩井相談役として活躍されると同時に、日本のバレーを世界的水準にまで育て上げられた方である。大正七年の米騒動で社会的攻撃をうけた鈴木商店が近年、総合商社の源流として再評価を受けている(城山三郎『鼠(ねずみ)』、文春文庫、桂芳男『総合商社の源流・鈴木商店』、日経新書)。この鈴木商店の支配人西川文蔵氏の養子となられた西川政一氏が苦学して神戸高商に学び、ビジネスマンとしての活躍と同時に、バレーボールの普及にも生涯をかけられたことに深い敬意をいだかずにはいられません。

草深い丹波の地でスポーツ熱の洗礼を受けた私は、最近では硬式テニスの静岡県県壮年チャンピオンとして、コートをかけめぐっています。

奥谷松治「少年のころの思い出」(山ざる9号)は、旧年に逝去された氏の御遺稿として、また名著『聞き書・丹波の庶民史』(平凡社、昭和五二年)の続稿として読みました。丹波の「庶民」(生産に従事しこれが報われることなしに一生を送る底辺階層と定義)として、各種転業に従事した二十一名の郷里の人々の六、七十年にわたる生きざまを

▼ふるさと便り▲

昨年の丹波10大ニュース

丹波新聞によると、丹波県民局では昭和五十三年中における丹波の10大ニュースを十二月十四日発表した。

それによると、丹波地方の地域開発が着々進んでいることが明らかである。発表は次の通り。

福知山線の電化など

①国鉄福知山線の電化決定など丹波の大型プロジェクト大きく前進
 Ⅱ国鉄福知山線の電化決定▽近畿自動車道舞鶴線の設計協議すすむ▽



香良の滝

丹波地域整備計画策定される。

②「新しいふるさとづくり」をめざして地域の連帯進むⅡみんながゴミを捨てない運動の展開▽新しいふるさとづくりの歌「丹波のうた」制定▽新しいふ

るさとづくり推進大会の開催▽ふるさと芸能祭の開催▽ふるさと丹波の紹介映画製作▽モデルコミュニティの指定すすむ。

③石生バイパスの開通など、丹波の生活道路の整備進むⅡ石生バイパス▽春日バイパス▽和田バイパス▽小野尻トンネルの各開通▽幸世橋の完成。

④水田利用再編対策の目標面積達成Ⅱ転作面積は千五百九十八ヘクタールで、目標面積に対し一二・三%の達成率。

⑤精神薄弱者更生施設の着工など福祉の充実進むⅡ(仮称)丹波精神薄弱者更生施設の着工▽(仮称)県立丹有養護学校の着工▽摂丹児童相談所丹波分室の開所。

⑥佐仲ダムの完成など農業生産基盤整備すすむⅡ佐仲ダム完成▽農業生産団地の近代化すすむ▽丹波のは場整備すすむ。

⑦丹波CSR総合センターの着工など社会体育施設の整備すすむⅡ丹波CSR総合センター着工▽丹波文化会館体育館の着工。

⑧松くい虫の完全駆除体制の推進Ⅱ被害木は昨年の約五倍の一万五千本、四千五百立方メートルに達し、県、町、森林組合、森林所有者が一丸となって完全駆除を進めている。

⑨篠山総合庁舎の完成など県地方機関の施設整備すすむⅡ篠山総合庁舎の完成▽摂丹児童相談所丹波分室、柏原保健所公害検査室の増築工事着工。

⑩丹波少年自然の家「やまびこ」(愛称)が完成、阪神、丹波の連帯が深まるⅡ阪神六市一町と丹波十町が五億二千万円をかけて建設、六月一日に開所した。十一月末までの利用者は一万八千二百二十九人達した。

昨年は西ドイツにいる娘の家で二ヶ月半滞在してヨーロッパの国々を見たといふ、たゞと廻ったときの歌を書いて見ました。

このくにもいくさの跡あり城壁に

つる草深く砲穴さらせり (西ドイツ)

くれないの雲ひだたみゆくさまに

北国の大空暮れおちむとす

朝の森に路の音して若きらの

近づくと思し曲りゆきたり

ビルの谷間かげる水路をゴンドラの

軋みてくぐる「ためいきの橋」 (ベネチア)

渡りし者は再びかえらざりしとふ

王宮と牢にかかる石橋

月青きこの海原の対岸に

展がりてあむアラブの国ぐに (フランス)

いまはにも逢ひかなふまじ娘らと

囲める卓に蠟涙こぼるる

ついに我等になつかざりしよ遠くに

孫離れ住みし八年を思ふ

〈本の紹介〉

新聞を斬る

生田 正輝 著

著者生田正輝氏は柏原出身、慶応大学卒業後、母校に残ってマスコミ専攻の同校新聞研究所長を経て法学部長、法学博士である。

今日、中高校生徒の非行、自殺などの傾向が憂慮されているのは、TV、新聞、週刊誌などの影響が指摘されている。にも拘わらず一般的にマスコミに対する批判は弱いように思える。本書は著者が、サンケイ新聞その他に書いたものを集大成したものであるが、率直かつ明解にマスコミの犯しつつある公害ともいえる筆害に対して警告を発している。ちかごろ痛快な論評である。郷友各位の一読をすすめたい書である。

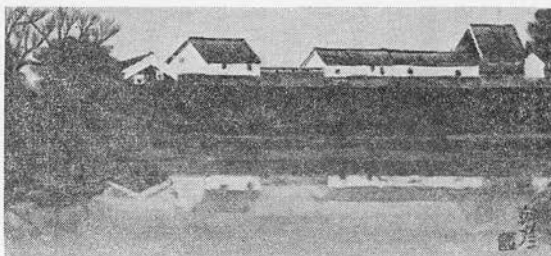
(B6・二三二ページ定価九八〇円)

(松)



常岡画伯、福知山で
丹波・丹後風景展

日本画の中堅画家として活躍中の常岡幹彦画伯（柏原）は五十三年十月二十一、二日福知山市に進出



「丹波の白壁の家」

『丹波・丹後風景展』を開催した。何分五十五点に及ぶ大小作に加えて、父親文亀画伯の花鳥画なども展示され、大盛況であった。同画伯は本年七月には東京で個展を開くとの事で、益々制作に油が乗って来ているとの事である。

三浦氏水彩展開く



春日町出身、日本水彩画のホープ三浦巖（いわお）画伯は東大をテーマに版画展を開催（第9号参照）好評を博したが、この度画文集『白日夢』刊行記念に、昨年六月東京銀座四方画廊に水彩展を一週間開催、郷友多数参観好評を博した。作者の辯々厳冬を前に最後の錦繡を飾り立てている雑木林。

「阿修羅の流れ」

篠原よね子さんの
刺繍作品展

青垣町出身篠原よね子さん（旧姓佐々木）は朝山ふみ刺繍教室を独立して、前年六月吉祥寺の東急デパートで篠原教室刺繍作品展を開き、多くの観客を集めて成功裡に六日間の展観を終った。



展覧会場のようす

柏陵同窓会東京支部 五十三年度総会

六月二十四日午後二時、吾妻橋アサヒビヤホールで開催。開会にさきだち、午後一時よりアサヒビールの工場見学、ビールの快い匂いに酔いながら大きな設備を一巡した。

会は司会前田氏の開会のことばで始まり、有田支部長より多数参加による盛会を祝うよろこびの挨拶、世話係村上氏より会務、会計報告があり、梶浦副支部長の首頭で乾杯、懇親会に移った。中学、高女、高校の校歌の斉唱なども出、大変にぎやかに、なごやかなムードのうち午後四時上山副支部長の閉会のことばで終了した。参加者氏名左記の通り。

有田喜一・梶浦浩二郎・上山顕・波多洋三
足立源治・足立勲平・小林剛・依藤広次・村上末吉・志村勝郎・後藤春雄・中井良平・渡辺隆男・下中昭男・増野忠雄・前田和市・前田和秀・植村章子・小田利江・吉住政子・足立かをる・小糸イキ・安原三智子・沢田みさを・常岡幹彦・田中篤郎・藤井宏次・足立正

岸本昌子・可部美智子・岩井要・瀬々妙子・黒田貢・井本義一・岸本圭司・坂本重雄・飯田光雄・上野重喜・大西修三・高見秀史・畑雅樹・足立敬子・足立元美・大野均・小杉仙生・鶴田ゆき子・山本湧一・頼安啓賀・小田善彦・谷口捷・徳義通夫・松下文雄・打田輝一・高田守・橋本広司・桑谷暁円・山本紀子・山内隆行・中谷幸雄・村上昇・大野富士夫・谷垣雅司・岡吉明・足立高彦・小野勝弘・岸喜彦・上嶋一晃・桑谷陽子・小森敏・鍋木栄竹村紀代子・足立俊彦・米田勉・北山素純・足立吉数・梅垣卓・小山年博・直田正・椿原延二・広内卓生・渡辺則幸・吉竹正裕・吉田勇司・西山栄治・以上八十四名（足立記）

次号メ切り！

会誌「山さる」第十一号のメ切りは昭和五十四年十二月末日です。発行は同五十五年四月の予定です。発行がおくれがちになります。お早めに随想、身辺雑記、紀行、詩文、何でも結構です、お気軽にご寄稿下さい。写真も添えて下さればなお幸いです。

（編集委員会）



同窓会スナック

水上囲碁会年間成績表

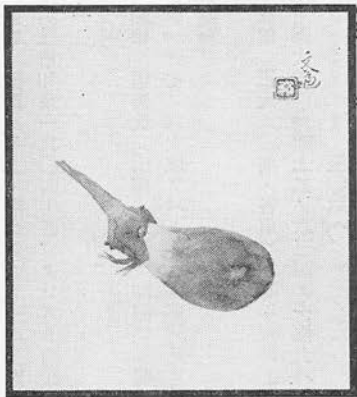
<数字は左勝・右負>

月	日	53-2/25	5/27	8/26	11/25
渡	辺	2-3	0-5	—	2-1
下	中	0-3	6-3	2-5	5-5
新	島	2-4	4-5	4-3	4-3
小	川	1-3	—	—	—
小	林	2-3	2-6	—	2-5
前	川	5-1	—	—	4-2
川	畑	1-1	4-4	—	—
三	沢	2-1	5-0	4-2	3-2
足	立	6-5	4-5	5-3	5-5
松	山	5-3	4-4	2-6	2-2
豊	島	—	3-3	—	—
岩	井	—	6-3	—	—
中	井	—	—	3-2	3-1
谷	口	—	—	4-0	2-3
足	立(源)	—	—	3-2	1-1
勢	川	—	—	3-3	—
矢	尾	—	—	0-4	—
波	多	—	—	1-1	—
木	寺	—	—	—	0-1

水上囲碁同好会成績

当会は昭和五十三年に四回例会を開いたが、その成績は次の通りである。郷友の間には相当数の同好者がいるはずだから大いに参加して貰いたいと念じている。会場はいずれの場合も市ヶ谷の日本棋院を利用している。

表紙画家紹介▼常岡文亀画伯は明治三一年柏原町に生れ、東京美術学校日本画科を卒業、結城素明先生に師事、母校教授となる。その後文展審査員、大日本美術院同人、日展委嘱等日本画壇の重鎮として郷土出身画家の大御所である。帝展に「鶏頭花」及び「棕櫚」を出品、それぞれ特選「カンナ」は政府買上げの栄誉を受けた。さらにシンガポール総領事館をはじめ在外公館の作品を制作、世界的に知られる。なお文亀画伯の長男幹彦氏も父と共に日本画家として活躍している。



転居・転任・その他

『鍼』の杏林堂新宿へ進出

『鍼』専門治療で東京、赤坂で活躍を続けている杏林堂（小川晴通院長、柏原出身）が、こんどは新宿に進出、超高層ビルとして完工した新宿野村ビル、5Fに、新形式による診療院を開院、五十三年七月十八日披露パーティーを開いた。

院長は小川晴通、副院長小川卓良、同黒田譲氏である。郷友各位の来院を歓迎している。

Combination of modern and
classical treatment methods.



鍼 杏林堂
KYORINDO ACUPUNCTURE CLINIC
赤坂 TEL (03) 583-1553
新宿 TEL (03) 348-0721

「かすが」完工

伴仲信次氏

春日建設の伴仲氏（春日・多利）東京都新宿区西早稲田三二一五、早稲田ハイッ「かすが」を建設、その七〇一号へ十一月移転。電話〇三二二〇二二四二一



東田 実氏（山南）三十年勤続の御精巧写真製版所を会社の事情で退社、虎の門の御大橋巧芸プロセス社に入社。

藤田 千治氏（市島）仙台のオリエンタルコンクリート東北工場に転勤して一年。東北新幹線工事関係で多忙な日々を送っている。

丹生（タンジヨウ）光雄氏（市島）さる十月、大阪の住友アルミニウム製錬へ転勤。

谷川 義男氏（青垣）さる三月、三井生命函館支社長に転勤。函館市松蔭町二二一

大槻 哲夫氏（市島）アメリカ・シカゴ駐在を命ぜられ、さる十月出発しました。東京製網勤務。

近藤 敏雄氏（柏原・田治）東京都葛飾区小菅四ノ一〇ノ一綾瀬駅前ブティックつるや

谷垣 正雄氏（柏原）電話番号〇三三三三二一〇七六

谷口 捷氏（氷上・南油良）千一八二東京都都柏江市和泉一九〇四一五、クレスト柏江一〇一

形田 恒夫氏（山南・下滝）沖縄県那覇市小禄一ノ七ノ六大城アパート 極東開発工業（御勤務）

直田 正氏（山南・谷川）五四年六月より東京都大田区仲池上二ノ六三四一池上パークファミリー二一三〇六へ。

訃報

大西 淑恵さん（元海軍中将、故大西滝治郎氏の妻）二月六日午後二時二十四分、肝臓がんのため、東京都千代田区の九段坂病院で死去、七十七歳。告別式は同月十八日午後一時から横浜、鶴見の総持寺で行われた。

神風特攻隊の生みの親といわれ、終戦翌日に自刃した大西中将の未亡人。五十年八月、神風特攻隊の『発祥の地』とされるフィリピンのマバラカットで行われた特攻隊員の慰霊祭に生き残り隊員とともに参列、集まったフィリピン人に対し「大戦中日本兵が犯した罪を許してほしい」と涙ながらに陳謝した。

泉 幸夫氏（氷上）五三年十一月二十八日急性心不全のため市川氏の自宅で急逝、告別式は同三十日午後二時より自宅で執行された。享年五十七歳、千葉鉄道管理局長、国鉄本社貨物局長など経たあと鉄道弘済会理事に転出、前途を嘱望されていた。夫人睿子さんも柏原町出身の郷友である。

畠山 正吾氏（佐用郡）五十二年四月十五日に逝去。

奥谷 松治氏（市島）五十三年五月三日に逝去。

安藤 秀夫氏（柏原）五十三年九月三日に逝去。

お便り・短信

（着順及び配列順不同）

小杉 武生氏（ ）郷友会総会に出席して故郷の人々に会えて本当に嬉しかった。老令の方ばかりと最初はびっくりしたが、時間が経るにつれ、皆、若者の如くはつらつとしておられ二度びっくり……。郷里の先輩に負けぬよう精進せねばと痛感させられた。

（弁護士）

植木 伍鹿氏（山南・和田）

平凡に八十なかばまで生きのびて
今朝も門前に簪を使う

せまい通路を蔽いかぶさったわが家の古木の梅の落葉が乱れ散って、秋深まれば掃除に追われ忙がしい毎日である。

年々歳々、花は美しくとも、人同じからず、何時まで働けることやら、憐人の感謝の言葉を、せめてなぐさめにして、毎日精を出している。食事のとき、妻が、娘から電話で、「新聞の歌壇に、お父さまそっくりの歌が出ていましたよ」といって来ましたといわれ苦笑しました。頭首の歌のことです。

森田 淳二郎氏（篠山町）退職して三食昼寝つき。夏などは昼間から暑氣払いの果実酒つきの生活です。

とき／＼いい植物随筆の原稿をものとしてと念願しております。成松出身の妻まさ子とは、氷上女に多紀男の関係で、植物媒体で楽しんでおります。

細見 次郎氏(水上・小谷) 三五年、柏原高校卒。三九年、信洲大学卒。

古林製薬中央研究所入社、現在に至る。その間生物の研究を続けている。(同所研究員)

淵上 網蔵氏(市島) 謡の会が多く、また町内会長(調布市)をやっていますので、引っ張り出されることが多い。

坂上 登氏(水上・下新庄) 郷友会の趣意など知りたいです。仙台の大学に来て十九年になります。この度の地震に対する被害は僅少でした。

ふるさとの父母は健在です。(東北大学電通研究所)

佐中 哲郎氏(水上・石生) 郷友会の組織を知りうれしく思っております。今後よろしく。(積水化成製品工業企画部職)

可部 美智子さん(相原) さる十一月十八日より『ギャラリ―みたか』で作陶展を催しました。その間制作に追われました。(陶芸家)

藤原 弘行氏 病気のため長期静養中と娘の結婚式などが重なり失礼します。八十歳祝寿のお祝いとして金一封贈りました。

片山 紀子さん(黒井) 三十代なかばに達し、また子供も学校に入学させて、改めて自分の受けた学校教育について考えさせられる昨今です。

浜田 美代子さん(旧姓大西、柏原) 主人が関西から東京へ転勤になりました。あれからもう十年近くなります。

子供二人(長女中三、次女小五)です。

畑 義博氏(春日・多利) 郷友会に出席いたし度く思いながら、身体が不調のため、いまだに医師の治療を受けています。

藤本 久氏(西協市) さる十月、画家の妻とともに蔵王山の紅葉を描きに参りました。

今年で三度目です。

私は毎月短歌雑誌に和歌を投稿し、第一歌集出版後、数百首になりました。

なお、昨秋育英社から出版された『兵庫の

百人』の中に洋画家の家内が選ばれ喜んでます。

林谷 集氏(石生) 本年はじめ家を改築し、次男夫婦と同居することになりました。初孫が生れ忙しい年でした。

野村 虎男氏(柏原) 大田区教育委員会の社会教育を受講したり、ときどき子供たちの処へ出かけたりで、現在は何処にも勤めていません。

堀井 隆川氏(山南・岩屋) 昭和四十年に上京、北区東十条に、大師教育会支部を設立、高校教師のかたわら布教活動に奔走しました。その発展段階として、都営八王子霊園の近くと同四十七年新寺を建立、微力ながら仏法興隆のため努力精進しています。(真照寺住職)

兼松 千恵子さん(春日) 主人、幸夫です。昭和十年八月生れ。柏原高校卒。和光証券東京本部勤務。趣味Ⅱゴルフ、読書。

久米 裕氏（佐治） 柏原、第三六回卒業。

父が佐治の小学校校長をしていたので、一年生は寄宿舎、二年生は自転車通学、三年生の時は黒井から汽車通学、四、五年生は柏原のお寺に下宿。課外運動は一年生の時から柔道。柔道関係で先輩、後輩の想い出が多い。

今は第二の故郷、秩父に暮している。（榑守屋藤）

松本 富子さん（旧姓新山、成松） 成松を出てから京都、埼玉県わらびと移り三十年になります。商人の家に嫁いで二十年、二人の娘と四人家族です。

一年を経ることに故里はなつかしく、昨年、一昨年と帰郷してなつかしい地を踏みしめました。五十四年三月ごろには喫茶店を開いている。（現在洋品店主）

本庄 曉氏（北中） 仕事の関係でイランに行っています。（イラン・ジャパン・ペトロケミカル・カンパニー）（代筆）

小谷 正雄氏（柏原） 相変わらず毎日大学へ出かけて、夜も自宅へ仕事を持って帰ること

が多い情況です。（東京理科大学々長）

坂本 正幸氏（春日・多利） 東京に来て六年すぎました。方言まる出しで毎日やっています。会社では丹波のPRに努めています。（赤井電機（榑）経理部）

坂上 豊氏（氷上・下新庄） 何回か氷上町基会に参加しておりますが、もっと大勢の愛好者が集まれるよう切望いたします。（三井生命東京支社）

森本 和三氏（市島・徳尾） 柏原中学第三十回卒業。電機学校に学び、東芝に六〇歳まで勤務。現在東京電機大学に勤務、出版局編集並びに講師。

村上 久夫氏（春日・黒井） 是非入会いたし度存じておりました。（丸金（榑）東京店）

三浦 成夫氏（春日・多利） 画家三浦巖はわたくしの実兄です。（十条キンバリー（榑）社長）

松枝 勝氏（市島・矢代） 会の消息などお知らせ願えば幸いです。お会いして皆様のお顔に接したく思っています。（神奈川・日産工機）

松下 せつ子さん（柏原） 足が不自由のため失礼します。長男とともに元気で余生を送っております。信仰に生甲斐を感じての日々です。

松本 金吉氏（柏原） 『山庭』とは出来る限り自然に近い雑木を主とした庭造りのことです。（山庭設計施工）

本部 真之氏（京都） 柏原中学第二六回卒業。亡母が柏原町下小倉の田家出身のため。水産講習所漁学科卒業後、役人生活を経て千葉県内で実業に従事、千葉に永住のつもり。（旭建設KK顧問）

諸江・節子さん（旧姓船川、春日・黒井） 昭和十九年に結婚し、主人の勤めの関係上水戸市へ参りましてはや三十四年にもなります。子供もそれぞれ家庭を持ちまして、孫も

三人になりますので淋しさは感じませんが、水戸へ来ましたところは汽車の音に涙があふれ、丹波恋しさに泣いたものでした。

黒井にはまだ母がおりますのでたまには帰りますが何時見でも福知山沿線のながめ、山々など、何れをとっても故里がよく、なつかしさもひとしおでございます。

またそれにも増して、何時帰っても暖かく迎えて下さる女学校時代のお友達、心あたたまる感じでありがたく、これまた熱いもののがこみあげて参ります。

石本 美栄子さん(旧姓余田、市島・前山)結婚と同時に横浜に来て五年になります。同じ郷里の人たちが身辺にどのくらいいらつしやるか。名簿が出来たらはお送り願います。(日本電気横浜健康管理センター)

足立 敬子さん(市島)この春には柏陵同窓会の会合に初めて出席して、なつかしい方々の顔に接することが出来、ありがとう存じました。

足立 順治氏(幸世)五四年二月に満七十

七歳。そして一月十一日は結婚五十年になります。

子供たちも欠けず孫も十三人おります。子供たちはふるさとの幸世をよく知っています。孫たちはよく知りません。郷友会の発展を祈っております。

足立 忠三氏(青垣)五三年三月末、長年の国家公務員生活を離れて、退官後は四月から民間業者団体の理事に就任しております。(団体役員)

足立 政継氏(青垣・山垣)郷友会のあることを知りませんでした。名簿が出来たら送って下さい。

私がこちらに來たのは昭和四九年九月からで、四年になります。(伊藤喜工作所)

足立 美都子さん(柏原)昨年十一月、鹿児島へ転勤で参りました。関東地区へ帰りましたら、またお世話になります。

足立 義雄氏(氷上・清住)五三年四月、名古屋へ転勤になりました。本社(川崎)に

帰りましたら、是非出席したいと思います。(ユースキン製薬)

飯田 光雄氏(青垣)丹波を離れて二十五年、不惑の年とは名ばかりで感うことばかりの毎日です。郷友会に仲間入りさせて頂きます。(文具及びキット自營)

伊藤 多津子さん(春日・抽津)私が東京に参りまして十年余りになります。山深い氷上を思い出しております。

井上 悦三郎氏(氷上・成松)伊藤忠燃料(株)本社より高松支店に転動いたしました。

井本 馨氏(春日)昭和三十年三月柏原高校卒業後狭山市に居住しております。現住所へは四九年四月に移りました。(丸五基礎工業東京支店)

井本 義一氏(柏原)快食、快眠、快通。目下体調は快調ですが、加えて快飲がたつて体重が八〇キロをオーバーし勝ちです。休日は少々雨でも自宅付近の多摩丘陵を必ず約

三十分、早朝マラソンで汗を流し、減量に努めています。(神戸太陽銀行菊川支店)

青木 慧氏(中竹田) 会則その他、会について機会があれば資料をお送り下さい。(著述業)

芦田 律子さん(青垣) 丹波の古屋を内部改築しましたので、その往復の間新幹線がわたり廊下のように感じられました。東京に比べて、丹波の気は今でも清浄で気持ちいいです。(活花)

岩村 文子さん(相原) 年とともに故郷の風物が恋しくなります。今日、家族一同元気で平穏な日々を送るのは昔の学校教育がその一つと感謝しております。常識の上に立った自由を大切にしたいと痛感しています。

上田 良二氏(相原) 転勤で横浜に来て四年目。郷友会の会があるのを初めて知りました。(資生堂横浜販売K.K.)

植村 章子さん(春日・長王) 私、満七十

六歳になりましたが、健康に恵まれて余生を楽しんでおります。

時折りの俳句の吟行にも参加して、見学、作句と勉強しておりますが、さっぱり進歩しなくて恥かしいことです。

年頭に当り一句……。

注連飾る釘しかと打ち喜寿迎う
初晴れの全き富士や喜寿を得て

綿沢 洋子さん(青垣) 七年前に『お好み焼・ひまわり』を始めましたが、この度『スナック・ひまわり』として再出発して張り切っております。赤羽方面へお出かけの折にはぜひお立寄り下さいませ。(スナック自営)

江藤 美智子さん(春日・国領) 主人の転勤で北関東に三年あまり、現在は相模原に三年八月になります。

せまい日本と申ししましても、やはりふるさととは遠くなりました。丹波の山なみがなつかしく思われる今日この頃です。

大久保 宏昭氏(青垣) 東京に来てはや十年になります。誰か知ってる方がいるかと案

しみます。次の機会を楽しみに……。 (イラストレーター)

岡原 裕泰氏(相原) 東京生活はもう十八年になります。言葉のナマリで関西人でしょうと言われること頻り。柏高のクラスメートが上京すれば、無理して使う丹波弁に変な顔をされたり、何とも中途半端な言語生活です。憶面もなく、お国言葉でまくしたてる大阪人は、その点まことに立派というはかりません。(フジTV)

岡山 義彦氏(市島) 若年もの幹事をつくり、会の発展を希望します。会報を送って下さい。(K・K寿楽)

荻野 勲氏(市島) 郷友会には是非出席したいと思っております。この度は出張のため東京を留守にして、残念です。(国鉄情報システム部)

荻野 吟逸氏() 郷友の一員としてこの会の栄えることを祈っています。(日本ブリタニカ)

近藤 田治氏(春日・東中) さる十月六日

から十一日まで大同学院韓国視察団三十六名の一行に加わり、ソウル、慶州、扶余、水原、大邱、板門店を廻り同窓と交歓して旧交を温めました。そして戦前と変る新興国の発潮たる姿に接し、また古い歴史のあとを訪ねて感銘を深くしました。この一行には郷里市島町の吉見文憲先輩も一緒でした。

序でながら韓国は一九七〇年からのセマウル(勤勉・自助・共同)運動をモットーに新しい国造りに懸命です。(全食改善協会役員)

小林 剛氏(市島・北奥) 相かわらず週末の乗馬を楽しんでいます。これが私の生き甲斐でもあり、また健康法の一つでもあります。最近ばかりいささかたしなむようになりました。(中央畜産会)

小林 武治氏(春日・新才) 現在関係している国学院大学理事長代理は十余の役職を兼ねて多忙をきわめています。

小中 克巳氏(市島) 昨年(五十二年)住居を新築して八月より茨城県牛久町に住んで

います。上野駅より常盤線で五十分、牛久駅の近くです。

東京のベッドタウンとして急速に開発されていますが、まだ田園風景も豊かです。(長崎大学教授)

木不 五郎氏(氷上・石生) さる五十一年十二月から肺気腫、脳動脈硬化症並に高血圧症のため自宅で臥床中でございます。(画家)

安原 三智子さん(旧名和己、青垣) 三智子、和己は同一人物で、改名して三智子になりました。諸経費節約の折柄、恐縮に存じます。

矢持 七郎氏(春日・鹿場) 体調をそこねております。会と会員のご発展とご健康を祈りあげます。

勝野 きしのさん(春日) いつか年を重ね、この三月には永年の勤めに終止符を打つことになり、人の世の秋をしみじみかみしめています。

それにつけ、なお余生を送る安住の地を丹

波に求めて帰るべきか……それとも注目され始めた老人ホームに求むべきか。思案に明けくれの今ごろです。(新宿区立あゆみの家)

若森 敏郎氏(山南) 最近五年間ほど海外勤務についており、本年(五十三年)四月末に帰国しました。東京におります間はせいぜい皆様とおつき合ひさせて頂きたいと存じます。(電源開発KK)

好本 信子さん(柏原) 結婚して十三年、やっと育児から解放されて漸く好きな事が出来るようになりました。この間、引越して七回、やっと地に足をつけた一戸建に落着くことが出来ました。

由良 洋太郎氏(市島) 昨年膝関節部治療のため入院、全治したが、その後慢性腎臓炎で再度入院、目下治療中。三十坪百姓と俳句往来は無理のない限りつつけております。

山本 博正氏(相原) 郷友会の存在は知りませんでした。どのような人たちが入会しているか知りたいです。(川崎重工東京本社)

畑 雅樹氏（春日・多利）東北新幹線の試験を担当しております。小山市に試験線をもって、運転しておりますので、見学乗車にお越し下さい。（東京北鉄道管理局職員）

橋爪 忠氏（旧姓藤原、成松）郷友会の総会に出席したいと思っておりますが、この度はライオンズクラブの幹事会があつて残念です。会費の請求書をお送り下さい。（三葉水道俣代表取締役）

西川 宣孝氏（青垣・田井縄）名簿や会誌を是非お送り下さい。次の機会には会合に出席出来るよう努力します。（大田区役所）

永井 貞子さん（永上・北油良）谷川岳のある「水上」へ参りまして二十六年になりました。群馬の「山ざる」となりました。

仲 一聡氏（和田）さる十月一日で仙台東務となりました。（高崎製紙・東北製紙営業所）

富沢 章氏（茂原市在住）昭和十九年十月

から二十三年一月まで柏原高女の教師でした。従つて会員の資格があるかどうか判りません。

（係）縁故者として資格は充分あります。

徳田 八郎衛氏（柏原・母坪）さる四十一年春、京都大学大学院（理科）を卒業して関東へ来て十二年になります。初めて連絡を頂いたので四十代以上の会合かと想像しますが、これでは敬老会や昔話会になりがちです。何卒二〇代三〇代の若い人達を組織に加えられるようお願いします。（防衛庁統幕第二室陸上自衛官）

（係）敬老会ではありません。年令は制限しておりません。どなたでもご入会自由です。

長尾 清三郎氏（上新庄）この度老令のため日本調度機働を退職、なつかしい故里に帰つて来ました。十数年間見なかった山容も変らず、まことに山紫水明で古里のよさを満喫している昨今です。

郡内至る処道路は四通八達し、朝夕のラッシュは東京を想わせる程の交通量に驚ろいて

おります。

山本 紀子さん（山南・太田）以前から貴会へ入会を希望しながらも、機会を得ず、柏陵同窓会に出席して、詳細を伺いました。折を見てお仲間に入れて頂き度く楽しみにしております。

山田 貞子さん（旧姓多田、春日・黒井）私は春日部市へ来てまだ五、六年くらいで不馴れな事も多いのですが、広い関東にも同郷の人たちが大勢おられることを知る機会がなかつたように思います。（沼端小学校）

山添 ますみさん（春日）こちら（佐倉市）へ参りまして九年を過ぎました。友だちの消息も聞かないので、どうしていらつしやるのかしらと思つていました。姉も二人とも近くにきておりますので、心丈夫です。

竹村 仲生氏（春日・野村）中華人民共和国広州市に行つていましたが、さらに十一月中旬から六ヶ月間は業務のため北京に行く予定です。（野村貿易俣社員）

常岡 幹彦氏（柏原・上小倉）さる十月は福知山で個展を開きました。十二月には中兵庫信用金庫本店の落成を祝して十点出展して多忙を極めました。（日本画家）

高田 守氏（柏原）東京へ来て四十三年近くになります。よろしく願います。（三菱電機特許部）

田辺 輝一郎氏（柏原）祖父母の手元で育てられ、子供のときから柏原の古い話を聞いて育ちました。

毎年一、二回は必ず墓参に柏原を訪ねますが、昔から残っているのは「木ノ根橋」くらいだと思いますが、そこを通る時はなつかしく昔を偲びます。（明石製作所）

常岡 昭氏（柏原）さる八月、慈恵医大病院入院、大腿骨腫瘍の手術を受け、療養中です。経過良好で、そのうちに復帰出来ると思っています。（眼科医院々長）

谷 達雄氏（柏原）つきつきと用をたのまれ、結局多忙をかこうことになりましたが、そ

の間がしあわせとあきらめています。（日本精米工業会常務）

杉岡 明美さん（水上・油良）長男が高校入試を控えておりまして、何となく落着かない毎日を過しております。お正月には中学校の同窓会が二十何年ぶりに開かれる予定なので帰郷したく思っています。

瀬々 妙子さん（柏原）二度もPRしたマイホームの結果を報告すべきだと思えます。「丹沢の山々と江の島の海に行けるように」と欲張って新学期より大和市（小田急江の島線桜ヶ丘下車）にマイホームを実現しました。ミニ菜園にトマト、茄子、ピーマン、秋は大根、白菜、カブなど出来て、足が地についた心地ですが、子供たちは「ローンを返すまで十八年間死ぬなよ!」と無情なことをいっています。（K・C・S 甥）

鶴田 ゆき子さん（市島）こどもたちが大学、高校と成長しました今は、家族揃って丹波へ帰省することもなく、時には丹波を知る方々と話したい思いにかられます。

さる六月の柏陵同窓会の集りに出席して、知人の消息などに話はずみ、往時をなつかしく思ったことでした。そこで「山ざる」を初めて手にして、皆様の各界での活躍を相読して心強いものを感じました。

和田 菊江（春日町）

- 山ざるはシワもふえずにまた一年
- 丹波焼き脚光あびて値が上がり
- ふる里のみやげ今年も丹波ぐり
- セーターは孫と同じがよく似合う
- 忙しいと口で云いつつ長電話

☆

会費についてお願い

昭和五十四年度の会費は金一〇〇〇円です。会誌にはさんである振替用紙をご利用の上、ご送金方お願い申し上げます。
財務担当理事 小谷正己
会員各位

祝寿会と総会

前年を超す盛会

昭和五十三年十一月十七日午後五時すぎには、本年度総会を兼ねて第三回敬老祝寿会が開かれるというので、会場の代々木、東郷記念館にはやばやと会員が集まり、その間に若い新会員も加わり、祝寿を受ける。

梶浦浩二郎 野村千里 常岡文亀（代理幹彦氏） 藤本久一の四氏が順次姿を見せて、会場は賑やかな雰囲気包まれた。

やがて、定刻の五時三十分、伴仲副会長の司会の下に始められた。まず足立会長より祝詞を述べたあと、お祝品の贈呈があり、これに対し梶浦氏より一同に代ってお礼の言葉があって、拍手裡に式典を終る。

ついで本年度の総会に移り、型の如く議事の進行あって、小谷財務担当理事の報告通り、別紙の決算報告を承認した。

少憩の後、懇親会に入り、これより足立正理事が進行係りを勤め、わざわざ郷里から上京出席された谷口柏原、木戸山南、石井水上、

平岩青垣、細見春日の各町長らの挨拶をはさんで、有田名誉会長、田社民連代表らからティーブルスピーチが続き、和気あいあい前年を越す盛会裡に同八時すぎ散会となった。

当夜の出席者（出身町別）は次の通り。

○柏原町 谷口務（町長） 田英夫、谷垣正雄

常岡幹彦、林田孝子、永井常實、野村虎男

○山南町 木戸源治郎（町長）、前田和市、植木伍鹿、久保知義、若森敏郎

○郡外 梶浦浩二郎、藤尾ちゑ子

○氷上町 有田喜一、足立正、秋元多美子、渡辺隆男、足立順治、有田毅、田辺泰久、坂上勝郎、村上大憲、足立謙吾、佐中哲郎

安達健一郎、菱田ふみ子、野村千里

○市島町 須原清、鶴田ゆき子、山内隆行、吉田宏、小林剛、芦田信吾

○青垣町 平岩慎吾（町長）、足立三治、小杉武生、小谷正巳、足立誠一、足立徹、山中一朗、飯田光雄、村上豊

○春日町 細見清次（町長）、松山幸逸、伴仲信次、吉住重造、上田鉄太郎、三井良治、小林武治、植村章子、村上末吉、井上和三

足立かをる、高橋博子

五十四年度初役員会

昭和五十四年二月八日午後五時から東京銀座のニューアサヒで開催。足立会長外各役員二十五名が出席、新年度の活動問題など懇談ののち、夜食を共にして歓談した。

出席者 足立三治 渡辺金三 松山幸逸 西川政一 伴仲信次 常岡幹彦 吉住重造 上田鉄太郎 足立徹 須原清 足立正 谷垣正雄 萩野武 小谷正巳 坂上勝朗 上山顕 村上末吉 足立誠一 前田和市 渡辺隆男 山中一郎 足立かをる 植村章子

お願 い！

年会費（二〇〇〇円）をお納め下さい。

会費は本会運営並びに会誌『山ざる』の発行費にあてています。「ぜひとも」協力下さい。

ご送金がないと『山ざる』誌は危機に瀕し、発行不能の事態も起りかねません。どうかよろしく御配慮をお願い上げます。

自昭和52年10月1日
至昭和53年9月30日

昭和53年度 会計報告書

関東米上郷友会

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
繰 越 金	前期より繰越 現金 77,857 振替貯金 311,709	389,566	出 版 費	山ざる9号製本, 印刷, 外諸掛 700冊	376,977
会 費 収 入	171名	236,000	通 信 印 刷 費	総会, 役員会通知, 印刷送料他	61,175
広 告 収 入	会誌山ざる9号広告掲載料 38名	312,000	支 払 手 数 料	振替貯金払込手数料 78件	7,315
総会会費収入	4,000×38名	152,000	総 会 費	52.11.17 於東郷記念館会場費及び食事代	155,400
寄 付 金	足立会長, 小林武治, 村上末吉, 谷口務, 石井敏秋, 西山徳治, 高野康慶, 生駒篤郎, 木戸町長, 赤松タツ, 上田鉄太郎, 島田ガラス	110,000	長 寿 者 祝	長寿者祝銀杯5個 @16,000	80,000
雑 収 入	役員会費残金 2,510 懇親会(コックドール)残金 5,400	7,910	消 耗 品 費	封筒その他	7,500
			記 念 品 費	小谷正雄氏文化功労者受彰 足立会長 叙勲記念品代	53,000
			広 告 費	丹波新聞広告掲載料	10,000
			繰 越 金	次期へ繰越現金 43,542 振替貯金 412,567	456,109
合 計		1,207,476	合 計		1,207,476

関東氷上郷友会の沿革

本会は明治三十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行なったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌（後の大蔵次官）氏らの奔走によって結成、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長に田健次郎男爵（元台湾総督）が就任。会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今日まで存続し得たことは、先輩各位の郷土愛のためのもので、とくに井上雅一、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏らの功績を逸することはできない。

昭和二十八年一月二八日、東京新橋駅樓上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催された。百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、熱っぽい雰囲気であることや、ありし世代の苦

闘を語る感激の大会となった。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であつた会長の椅子は織田信大子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれたが、この歴史的大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えた。石橋会長は以来十八年間の長期に亘つて郷友会発展に腐心され、昭和四六年八月、八三歳をもつて逝去された。本会は昭和四十六年十一月、つるや産業社長足立三治氏を会長に迎え今日に至っている。

関東氷上郷友会会則

（名称）

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

（目的）

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

（会員）

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役員）

第四条 本会に左の役員をおく。

名誉会長 一名

顧問 若干名

会長 一名

副会長 若干名

常任理事 若干名

理事 若干名内、二名会計担当

監事 二名

（役員の仕事）

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。

監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員の選出）

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

（役員の任期）

第七条 役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

（役員報酬）

第八条 本会の役員は総て名誉職とする。

（会 議）

第九条 会議は総会と理事会に分ける。

総会は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時総会を開催する。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(会費)

第十条 本会の会費は年額金一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第十一条 寄附金は理事会の承認により受納する。

(会計報告、会則の改正)

第十二条 本会の会計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、会計報告は十一月の総会においてな行う。

本会則の改正は総会の議を経て決定する。

会費領収報告

(自昭和53・2・1
至昭和54・1・20)

53年度分

足立謙夫 足立輝夫 足立一之 足立昌彦
足立謙吾 阿部すみ江 赤松たつ 芦田坦
有田喜一 井上和三 井上陽一 泉幸夫 逸
見あや子 上田譲 上田三四二 上野恵三
上山頭 植木英吉 植木一夫 江間時彦 小
野智恵子 大江範子 大地富美子 大槻作治
郎 大野渥子 岡本庄太郎 荻野武 奥谷松
治 加藤信太郎 柿原庸 柏谷進 片山日幹
川勝小里 木寺昭子 菊池顯三 小山正二
近藤田治 佐中哲郎 斎藤俊一 下中昭男
篠原よね子 正呂地郡治 梶田広子 莊克衛
田中篤郎 田辺善人 高桑良弥 高野広慶
高田守 高橋博子 高見幸男 竹林すま子
谷垣博 谷垣邦夫 谷口捷 土屋タイ 常岡
昭 常岡幹彦 田敏夫 豊島幹雄 中野周子
中村正之 西山敬次郎 野村千里 野村豊
萩原庸三 畑義博 東田実 久安敏夫 平山
茂 藤本久一 古倉克実 三浦巖 村上昇
村上豊 最上次郎 森田節子 森本和子 安
原三智子 山本徳治 和田菊江 天野清子

吉田勇司 常岡譲 足立治 (以上八四名)

54年度分

立幸夫 芦田律子 足立健一郎 飯田光雄
植木伍鹿 荻野定一郎 梶浦浩二郎 小谷正
己 田辺輝一郎 土田直吉 田季晴 永井輝
江 林田孝子 松山幸逸 三井良治 村上末
吉 村上大憲 山中的一郎 渡辺隆男 同貴美
子 袴塚節子 近藤敏雄 安井三善 池上碩
郎 荻野晴一郎 莊正枝 小杉武生 足立正
(以上二一名)

55年度分 足立徹

52・53年度分

生田清弘 石倉軍二 上野
重喜 荻野広三 柿原武司 高尾久子 久石
幸太郎 婦木一男 藤田正雄 安間喜代子

由良洋太郎 渡辺勉 渡辺久子(以上一三名)

53・54年度分

足立三治 足立誠一 有田
毅 小谷寛治 小谷正雄 坂上豊 鶴田宏
永井常資 西崎祥 野村虎男 菱田ふみ子
山内隆行 山中秀雄 瀬々妙子 大木千里
(以上一五名)

54・55年度分

足立かをる 上田鉄太郎
植村章子 谷垣正雄 畑秀夫 伴仲信次 上
田正巳 (以上七名)

50・53年度分

木呂子恵美子 安田功

51—53年度分 足立士郎 安藤道子 能勢次郎

51—54年度分 吉住重造

52—54年度分 秋元多美子 梅田重二 大

西俊二 小林剛 鴻谷喜代治

52—55年度分 芦田重秋

53—55年度分 横山幸三 藤尾ちる子

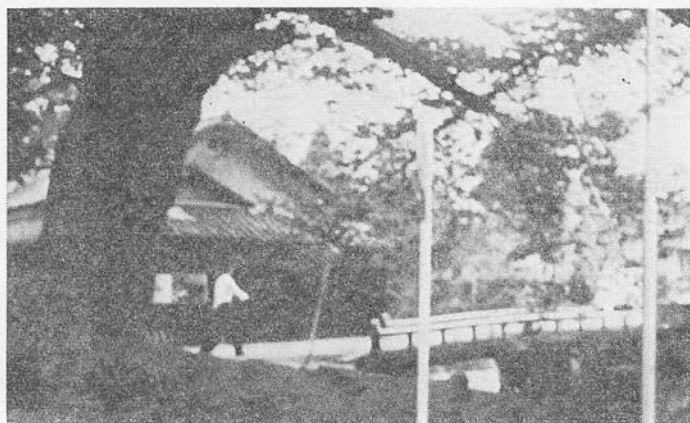
53—57年度分 坂上勝朗

寄附者芳名

(自昭和53・2・1
至昭和54・1・20)

【会誌「山さる」賛助広告料
は除く、カッコ内は金額】

足立三治(三五、〇〇〇)
小林武治(二〇、〇〇〇)
上田鉄太郎(二〇、〇〇〇)
高橋博子(二〇、〇〇〇)
村上末吉(五、〇〇〇)
栗原重治(五、〇〇〇)
赤松タツ(一、〇〇〇)
ひかみ会(七〇、〇〇〇)



名物 柏原町の木の根橋

本会役員

名誉会長 有田喜一

顧問 荻野定一郎・生駒篤郎・上山 顯

・西川政一・小谷正雄・小林武治

会長 足立三治

副会长 渡辺金三・伴仲信次・松山幸逸

監事 竹内政雄・須原 清

理事 横山幸二・永井常實・山中一朗・

村上末吉・前田和市・荻野 武・

足立 正・小谷正巳・植村章子・

足立誠一・木村つた多・常岡幹彦

・高見嘉都司・田辺輝一郎・村上

文憲・足立かをる・林谷 集・足

立 治・谷垣正雄・渡辺隆男・栗

原重次・田 英夫・足立 徹・上

田鉄太郎・芦田律子・山本清士・

吉住重造

あと がき

▼待望の会誌「山ざる」第10号を発行出来た。週刊誌や月刊誌だったら10号といっても問題にならないナンバーだが、「山ざる」となるとお家の事情が異なっていて十余年の歳月を経ている。その意味ではまずはおめでとうといっている。いいし、よくも続いて来たといえるかも知れない。

▼もちろん、今日まで続いたのにはただ漠然と徒食して来たものではない。まず製作費を出してくれている、つるや産業や渡辺製袋を両翼とする沢山のスポンサー、それに稿料なしで毎号寄稿して貰っている常岡文亀画伯はじめ多くの寄稿の諸君。それを整理して二玄社で印刷の出来上りまで面倒を見てくれている編集委員諸氏。このように多くの手を経て会員の手許に届けられる。この際、縁の下を努力を買って頂いて、年会費は是非送って頂きたいと、この機会にお願いしておく。

▼さて郷友会は『現在順調に発展しています』と大きな声でいえるまでに成長しているといっても問題はいろいろとある。その第一に新しく、若い会員を開拓することであ

る。昨年の総会には多くの新しく若い人々の参加を得て、従来にも見ない活気ある大会となった。今後はますます新しい会員の勧誘に一層努力する必要があるを得ない。

その一助にもと昨年発行された柏陵同窓会の名簿を借用した。驚くべきことに関東地方には千名以上も柏陵同窓会の人々が活躍していることである。これらの諸君に入会して貰えばと考え、本号に名簿を掲載した。これらの方々が入会してくれば郷友会も大変強力な組織になる筈である。よろしくお願いしたい。

▼会員が増加すれば「山ざる」の製作費も増大し、通信費も馬鹿にならない。そこで財源を年会費や賛助会費にのみ依存出来ないのて、昨年未明治生命保険会社の同意を得て代理店契約を結び「ひかみ会」を設立、春日建設の伴信次さんに面倒を見て貰うこととなった。保険加入の手数料の一部を本会に寄附して貰う仕組みである。どうか郷友会強化の一翼として保険加入の希望のある方はこの「ひかみ会」を積極的にご利用願いたい。(広告参照)

▼何はともあれ「ふるさと」心は誰の心奥

にもあろう。それを掘り起す努力を「山ざる」はすべきである。本号には珍しい顔ぶれの寄稿を数篇頂いた。心奥にある「ふるさと」心の発現であらう。今後ともこの傾向が増大、充実していくことを期待したい。(竹水)

山ざる 第10号

昭和五四年四月二五日印刷
昭和五四年四月三〇日発行

編集委員 松山幸逸 足立 正

坂上勝郎 須原 清

常岡幹彦 渡辺隆男

発行所

関東氷上郷友会

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号

春日建設株式会社内 〒102

TEL東京〇三(264)四〇一一番(代)

振替番号 東京 一〇二二三三三〇番

製作 株式会社 二玄社



ある国には 資源がいっぱい埋っている
ある国には 技術があるという

また ある国には……

世界は 別々に豊かさをもっている

日商岩井は そんな1つ1つの豊かさを
結びあわせることで より大きな豊かさを
実現せたいと 考えています

明日のゆたかさを考える



建築材料販売工事

建設大臣登録（般）51 第 1834 号

中央建材工業株式会社

取締役 荻 野 武
東京営業所長

（市島町出身）

本 社 名古屋市千種区若水町 3—26
電話 052 (761) 6181番（代表）

東京営業所 東京都中央区銀座 7 丁目 14—3
電話 03 (543) 8106番（代表）

大阪営業所 大阪市西区靱本町 2 丁目 4 番10号
電話 06 (443) 6665番

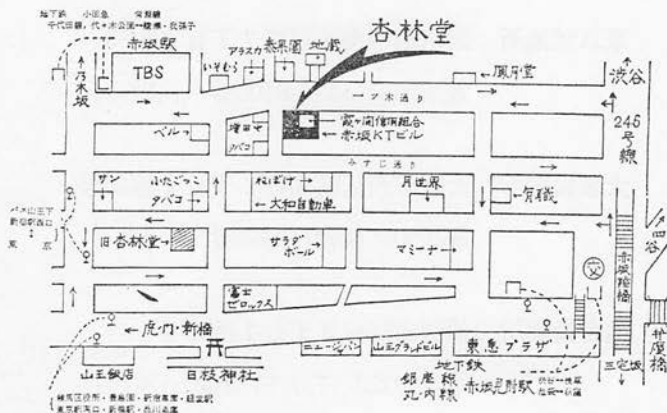
仙台営業所 仙台市高松 2 丁目 1 番15号
電話 0222 (73) 5724番

杏林堂

小川 晴 通

新宿診療所：東京都新宿区西新宿1-26-2

新宿野村ビル5階 電話 (348)0721代表



LOUISVILLE SLUGGER

野球ユニフォーム特約店

カラフル & トータルラインの

ルイスビル・スラッガー・ユニフォームで

勝利のサイン!!

あらゆるスポーツウェアのご相談は当社へ

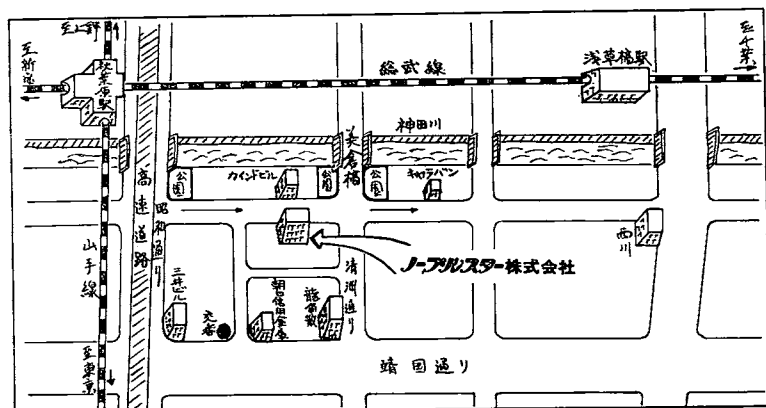
Noble **ノーブルスター株式会社**

取締役社長 吉住重造

(春日町中山出身)

本社 〒101 東京都千代田区東神田 2-4-7

電話 03 (866) 9121 (代表)



日本海運振興会会長

有 田 喜 一

東京都千代田区平河町二丁目四番
電 話 (二六三) 九四一七番
東京都世田区成城四ノ一ノ一五
電 話 (四八三) 一二〇九番
兵庫県氷上郡氷上町谷村
電 話 〇七九五八(二〇〇〇)八番

綜 合 建 設 業

建設大臣許可第 233 号

春日建設株式会社

代表取締役 伴 仲 信 次

専務取締役 伴 仲 信 義

(春日部出身)

東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号

電 話 東 京 (264) 4 0 1 1 番 (代表)

日本メキシコ協会会長
日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社相談役

西川 政一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五一六
電話 (三九〇) 一三一六番
(寓) 静岡県伊豆高原
電話 〇五五七―五三一―二五六〇番

学校法人国学院大学理事
国学院高等学校々長
学校法人国学院大学幼児教育専門学校々長
財団法人日本私立大学連盟理事
財団法人私学研修福祉会理事

小林 武治

東京都武蔵野市境南町一―三〇―二〇
電話 〇四二二(二三) 四七九六番

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員
老人問題研究所

木村 つた江

東京都調布市東つつじヶ丘 2—39—5

電話 東京 (300) 1505番

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東海産商株式会社

代表取締役 小 谷 正 己

逗子市逗子 1—6—4

電話 0468. 71. 3075

71. 6449

電子器機部品専門商社

株 式 会 社 三 誠

取締役社長 足 立 誠 一

東京都千代田区外神田 3—2—13

電 話 (255) 1 2 5 1 番 (代表)

照明ガラス・建材ガラス
食卓用ガラス器

島田特殊硝子株式会社

取締役社長 栗原重次 (国領出身)

東京都港区新橋 3 丁目 22 番 2 号

電話 03 (433) 6151 番 (大代表)

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地
電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

＜ のびのびベビー 子供のファッション ＞



(株)



種

〒158 東京都世田谷区瀬田 1-22-19
TEL 03(700) 3 1 2 1 (代)



チャウチョ 種

〒158 東京都世田谷区玉川台 1-13-12
TEL 03(708) 1 1 5 1 (代)

代表取締役 山本清士 (春日町小多利)

郷友の皆様 生命保険に加入されるなら
ぜひ当会をご利用ください

明治生命保険相互会社 代理店

ひ か み 会

代表 伴 伸 信 次

東京都千代田区飯田橋2丁目9番 春日建設(株)内
電話・東京 264—4011(代)

城下の面影を残す 奥丹波柏原の宿

山菜料理からアマゴ・ヤマメ・鱒・鯉・鮎・等川魚に始まり
香り高い松茸・丹波牛の肉料理、ボタン鍋



日本観光旅館連盟会員

三 友 楼

兵庫県氷上郡柏原町八幡筋 電話：丹波柏原(07957)②1110~2

客室数17室、収容人員60名、駐車場完備、送迎用マイクロバス

明治生命保険相互会社
本社東京直屬

足 立 正

東京都千代田区丸の内二丁目一番二号
電話(二八三)八一七一五番 直通

トーヨーサッシ株式会社

東洋サッシ工業株式会社

取締役会長 足 立 徹

東京都葛飾区細田三二八一九
電話(〇三)六七二二一(一)番
(内線五〇三番)

植 木 紙 工 所

代 表 者 植 木 一 夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電 話(八一)八五七三番

萩 野 定 一 郎

事務所

東京都千代田区丸の内二ノ二
電話(二八三)九七六六二(三五区)
録倉市御成町七〇六二番
電話(〇四六七)二二六七四番

自 宅

日本学士院会員

東京理科大学学長

理学博士

小 谷 正 雄

自宅

東京都新宿区神楽坂一ノ三
電話(二六〇)四二七二番
東京都大田区山王三ノ三六ノ四表
電話(七七)六六五二

坂 上 勝 朗

中野区白鷺三一五一
電話(〇三)三三九一〇八二七番

須原清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話(三八一)一六二一番

高見産婦人科

医学博士 高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話(九五六)〇六〇〇番

高見齒科

高見幸男

〒176 練馬区錦町二一八一三
電話 九三三—六七三一番

谷垣正雄

東京都杉並区高井戸西一—二四—一七
電話(三三三)六一六〇番

日本ビクター株式会社

西垣秀正

東京都中央区日本橋本町四丁目一番地ノ一
電話東京(〇三三)七八一一番(大代表)

黒川木徳証券株式会社

投資顧問 能勢次郎

東京都中央区日本橋一—一六一三
電話東京二七八—七八五三番
千葉市穴川二ノ三ノ六
電話〇四七二(五一)三七八二番
自宅

黒川木徳証券株式会社

畑 秀 夫

本社 東京都中央区日本橋一―一六―三
電話 東京(〇三)二七八―七八四六番

波 多 洋 三

文京区春日二―一七一―二
電話(〇三)八一一―二八六〇番

日本育英会 東京支所

支 所 長 藤 田 正 雄

〒162 東京都新宿区市ヶ谷本村町四二番地
電話東京(〇三)二六九―四二六(大代表)
川崎市多摩区王禅寺六七八―四
自宅 電話(〇四四)九五四―四九五七番

松 山 幸 逸

171 東京都豊島区西池袋四―八―八
電話 九七一―一五七四三番
(竹水)

三 宅 良 夫

東洋ゴム工業株式会社

曹 禅 寺 住 職

村 上 大 憲

東京都大田区池上七丁目二三番十号
電話 〇三―七五一―一〇三五番

丸三証券株式会社

東京店営業第一課

課長 安田 功

103 東京都中央区日本橋二丁目五番二号
電話 大代表 二七二局五二二一番

山中 一朗

227 横浜市緑区美しが丘三十四六一一
電話 (〇四五) 九一一—四四九三番

横山産業株式会社

取締役社長 横山 幸三

東京都江戸川区中央一—三四—六
電話 (六五五) 三九九一 代表

松尾 フ ル ー ツ

上 田 鉄 太 郎

(春日町野山出身)

〒102 東京都千代田区麴町 6 丁目

(国電四ツ谷駅前)

電話 03 (261)—2830 自宅 (264) 5060—1 店舗

図書出版



株式
会社

二 玄 社

図書目録進呈

日本名跡叢刊・全100巻：平安～江戸期の名筆を精印
書跡名品叢刊・全200巻：中国歴代の名筆を原大に精印
東洋の名筆・既刊30点：日中書画の名作を原寸大に複製

名跡六体大字典・書源／和漢書道史／書の歴史・中国篇
ペン書法／小学生の書道講座／書道技法講座・既刊32冊
書道基礎講座／書道講座・全8巻／中国書論大系・全12巻
文房清玩・全5冊／日本金石図録／文士の筆跡・全5巻
高村光太郎書／秋草道人墨跡／副島種臣書／斎藤茂吉書
古名硯・全5冊／新羅高麗の仏像／法隆寺五重塔の塑像
中国の印章／日本の篆刻／日本の古印／呉昌碩／斎白石
池大雅／中国美術の研究／日本における中国文学／ほか

<どう考えるか> シンポジウムシリーズ 既刊11冊
ニヒリズム／知識と人間／科学というもの／悪・死・倫理
／近代の成立と中世／文化・経済・国家／失われた教育／
中国・今昔／自然と人間／母なるもの／ヒューマニズム

<月刊雑誌> CAR GRAPHIC: A4判 毎月1日発売
<年鑑別冊> ROAD TEST／外国乗用車／国産乗用車
世界の自動車・全60冊／世界名車全集・全8集／その他

〒101 東京都千代田区三崎町2-4 代表取締役社長

電話 (263)6051～4／(239)0141～5 渡辺隆男(氷上町)

☆フランス菓子☆スイス菓子☆ドイツ菓子☆

BASEL

●洋菓子・喫茶・食事

国立駅南口店 (銀座通り)

Tel 0425-75-9791

●洋菓子・コーヒー

八王子駅北口店

Tel 0426-44-3583

●洋菓子・喫茶

京王八王子駅前店

Tel 0426-42-8424

●洋菓子・工場

豊田駅前通り店

Tel 0425-81-0824

●ワイン・ビアレストラン

八王子三崎町店

Tel 0426-22-5528

●洋菓子・アイスクリーム工場

奥多摩バイパス店

Tel 0425-44-3911

●洋菓子

多摩川店 (読売ランド下)

Tel 044-944-2214

有限会社バーゼル洋菓子店 社長渡辺圭造

美味無比
木の実酒

栗の三年酒

◆丹波焼壺詰
◆徳用びん詰

1、
3550
0000
0000
ml ml ml ml

小鼓の
西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(〇七九五)⑥〇三三二一代

この木の実酒「小鼓くりの三年酒」は、
純粹の丹波産栗の実、梅の実など山野の
木の實を原料として秘醸したもので、常
用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を
増進します。
ストレートでお飲みいただきますと、さ
わやかな梅の香りがひろがり、あと口に
はコクのある栗の味が残ります。
お正月のお屠蘇には、縁起のよい
「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キツト好評です。

交通事故

もし、あなたが加害者だったら……

水かけ論の
あげく……



仕事中また
電話がくる……



いったい誰に
相談しよう……



自動車事故の経験がある方なら、おわかりのはずです。事故発生後の不慣れで非常なめんどろな話し合い、ときには「言い争い」、「水かけ論」になってちががきません。

こんな悩みをスピーディに解決するのが
AIUの示談交渉サービス

賠償事故が発生した場合、**AIU**があなたのために被害者と折衝・示談に当たりますので、精神的苦痛や時間、費用のむだから解放されます。もしもの時の心強いパートナーとしてお役に立ちます。

示談交渉から保険金のお支払いまでまかせて安心！

AIUの自家用自動車保険

●ご契約条件と保険料例（年払・割引なし）

保 険 金 額				年令条件	自 家 用 普通乗用車	自家用 軽四輪 乗用車
対人賠償 無保険車	自損事故	対物賠償 (免責なし)	搭乗者傷害		自 家 用 小型乗用車	
1名あたり	1名あたり	1事故あたり	1名あたり			
万円	万円	万円	万円	年令を問わず担保	84,600円	49,140円
10,000 (1事故 無制限)	1,400	500	1,000	21才未満不担保	71,490円	42,850円
				26才未満不担保	63,790円	39,130円

※上記以外に各種保険金額の組合せがあります。

※他社から**AIU**への契約移行のとき、他社で無事故であれば無事故割引（最高50%）をいたします。

あらゆる保険について お気軽に ご相談ください



代表者
代理店 **永愛友商事** KK前田和市

〒107 東京都港区赤坂 3-1-2 AIUビル 電話585-0740(代)

GRUE BONNE 高級婦人服製造卸
つるや産業株式会社

取締役社長 足立三治

東京店 品川区西五反田 7-22-17 番地
東京卸売りセンター 12 階
電話 (03) 494 局 3285 ~ 7 番

本社 川崎市中原区新丸子 7 0 1 番地
電話 (044) 722 局 6371 (代表)
社長室直通 711 局 3324